

平成21年度第5回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時:平成21年10月22日(木)13:00～15:30

場 所:愛媛大学 本部第2会議室

議 題:

1. SPODフォーラム2009の総括について

- ・SPODフォーラム参加者数について 【資料1-1】
- ・SPODフォーラムアンケート集計結果(全体、個別、遠隔) 【資料1-2】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD/SD分科会開催要項について 【資料1-3】
- ・平成21年度総会における加盟校からの意見 【資料1-4】
- ・SPODが目指す大学教職員の能力向上(総会資料) 【参 考】
- ・FD分科会議事概要 【資料1-5】
- ・SD分科会議事概要 【資料1-6】

2. 四国地区大学教職員能力開発ネットワークのホームページ掲載資料の利用に関するガイドラインについて 【資料2】

3. SPOD加盟校の追加等について

- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約 【資料3】

4. 平成20年度SPOD事業評価委員会委員からの指摘事項に対する改善状況について 【資料4】

5. 今後のスケジュールと検討課題について 【資料5】

6. ファカルティ・ディベロッパー養成講座について

- ・FDファシリテーター(FDer)養成研修(SPOD東四国:徳島, 香川)
(合宿ワーグショップ研修)実施要項 【資料6-1】
- ・平成21年度ファカル・ティベロッパー養成講座実施要項 【資料6-2】

7. POD、SEDAカンファレンスについて

・PODカンファレンススケジュール

【資料 7－1】

・SEDAカンファレンススケジュール

【資料 7－2】

・POD、SEDAカンファレンス参加者一覧

【参 考】

8. SPODにおけるSDの定義について

【資料 8】

9. 愛媛大学における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業
に係る研修生の受入要項について

【資料 9】

10. 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップについて

・教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ実施要項

【資料10－1】

・教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップポスター

【資料10－2】

11. 遠隔会議システムの利用について

・遠隔講義システム受信校一覧

【資料11－1】

・SPOD研修プログラムの遠隔講義システム配信に関するアンケート結果について【資料11－2】

(意見交換)

1. 学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び教育関係共同利用拠点の認定等
に関する規程の施行について

【資料12】

SPODフォーラム参加者数について

SPODフォーラム 受付人数	愛媛大学	愛媛大学以外	計
9月8日(火)	3	30	33
9月9日(水)	(愛大ミューズ) 52 (グリーンホール) 9	146	207
9月10日(木)	(愛大ミューズ) 39 (グリーンホール) 19	45	103
9月11日(金)	4	5	9
合計	126	226	352

学生参加者数	愛媛大学	愛媛大学以外	計
	10	15	25

遠隔講義システム 受講者数	愛媛大学	愛媛大学以外	計
	-	48	48

合計	425
----	-----

大学別参加者数(SPOD加盟校)

学生・遠隔受講者除く

大学名	人数
徳島大学※	13
鳴門教育大学	2
香川大学	9
愛媛大学※	126
高知大学※	16
香川県立保健医療大学	1
愛媛県立医療技術大学※	8
高知女子大学※・高知短期大学	10
高知工科大学※	9
四国大学※・四国大学短期大学部	3
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	3
四国学院大学	1
高松大学・高松短期大学	0
聖カトリック大学※	12
松山大学※	15
松山東雲女子大学※・松山東雲短期大学※	19
徳島工業短期大学	3
香川短期大学	3
瀬戸内短期大学	0
今治明德短期大学※	0
愛媛女子短期大学※	0
松山短期大学※	2
高知学園短期大学※	7
阿南工業高等専門学校	2
高松工業高等専門学校	0
詫間電波工業高等専門学校	0
新居浜工業高等専門学校	0
弓削商船高等専門学校	0
高知工業高等専門学校※	3
計	267

※SPOD補助金連携校(16大学等)を示す

大学別参加者数(SPOD加盟校以外)

学生・遠隔受講者除く

大学名	人数
北海道教育大学	1
福島大学	1
横浜国立大学	1
静岡大学	1
名古屋大学	1
島根大学	4
岡山大学	2
九州大学	1
九州工業大学	2
佐賀大学	1
宮崎大学	1
鹿児島大学	1
熊本大学	1
島根県立大学	5
山口県立大学	5
大分県立看護科学大学	2
熊本県立大学	1
北海学園大学	1
高崎健康福祉大学	4
淑徳大学	1
日本大学	2
日本女子大学	1
白梅学園大学・短期大学	0
文京学院大学	2
芝浦工業大学	1
創価大学	2
武蔵野大学	1
早稲田大学	3
上武大学	1
名城大学	1
中部大学	1
京都精華大学	1
大阪国際大学	1
神戸学院大学	3
倉敷芸術科学大学	2
日本文理大学	1
広島修道大学	6
広島工業大学	1
岡山理科大学	3
学校法人福原学園(九州共立大学・九州女子大学)	1
第一工業大学	1
鹿児島国際大学	1
志学館大学	1
湘北短期大学	0
大垣女子短期大学	1
大阪成蹊短期大学	1
大分県立芸術文化短期大学	1
鹿児島女子短期大学	1
広島商船高等専門学校	4
大学コンソーシアム京都	1
社会保険労務士法人 総合労務	2

計
合計

85

352

大学別参加者数(学生)

大学名	人数
徳島大学	4
香川大学	7
愛媛大学	10
高知大学	3
松山大学	1
計	25

大学別参加者数(遠隔講義システム受講者)

大学名	人数
香川大学	3
高知大学	4
高知工科大学	2
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	19
香川短期大学	10
愛媛女子短期大学	1
高知学園短期大学	9
計	48

SPODフォーラムプログラム別参加人数

プログラム名	人数
0908B2 わかりやすいシラバスの書き方	27
0908B3 様々な評価方法	28
0909C1教員主導・学生主体の授業の進め方1～3	27
0909D1 経営者・管理者養成プログラムの考え方と手法～大学経営を担う役割をどう果すか	38
0909E1 事務職員はFDにどう関わるか	30
0909F1 POD2008参加報告	14
0909A2 ティーチング・ポートフォリオとは何か？	69
0909B2 「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム開発」現況報告	34
0909D2 キャリア教育入門	11
0909E2 大学職員のための 企画力養成講座1～2	40
0909F2 どうする？初任者研修	15
0909A3 ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの開発と一貫性構築の進め方	35
0909B3 授業進度を落とさず アクティブラーニング TBL(Team Based Learning:チーム基盤学習)の実践	22
0909D3 「学務系職員養成プログラム開発」現況報告	28
0909F3 学生との話し方・関わり方	26
0910A1 プレゼンテーションの極意1～2	55
0910B1 公開授業と授業アンケートの効果的な活用方法	34
0910C1 様々な学習支援の方法	16
0910D1 学生支援にどう取り組むか	36
0910E1 スタッフポートフォリオによる大学職員人事マネジメント1～2	27
0910F1 人を育てるコーチング・メンタリング1～2	61
0910B2 ものづくりとアクティブラーニング	18
0910C2 人文系授業のTBL入門	21
0910A3 【シンポジウム】学長対談「全学的な教育改革をどう進めるか」	136
0911B2 授業の双方向性を高めるクリッカー入門	26
0911B3 講義のための話し方入門	33

SPODフォーラムプログラム別遠隔講義システム受講人数

プログラム名	人数
0908B2 わかりやすいシラバスの書き方	18
0908B3 様々な評価方法	14
0909B2 「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム開発」現況報告	4
0910B1 公開授業と授業アンケートの効果的な活用方法	5
0910B2 ものづくりとアクティブラーニング	1
0911B2 授業の双方向性を高めるクリッカー入門	4
0911B3 講義のための話し方入門	26

SPODフォーラムアンケート(全体用)集計結果 (速報)

事前申込者数

SPOD加盟校から:281名

SPOD加盟校以外から:88名

当日参加者数:352名

アンケート回答者数:77名

回答率:21.9%

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 4年制大学	66	85.7
② 短期大学	8	10.4
③ 高等専門学校	3	3.9
④ その他()	0	0.0
計	77	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	37	48.7
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	8	10.5
③ 学校法人	31	40.8
④ その他()	0	0.0
計	76	100.0

(3) 職種

	度数	割合
① 教員	26	34.2
② 職員	49	64.5
③ 学生	1	1.3
④ その他()	0	0.0
計	76	100.0

(4) あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか

	度数	割合
① FDの実施担当者	18	24.0
② SDの実施担当者	8	10.7
③ FDやSDの実施担当者ではない	48	64.0
④ FDとSD両方の実施担当者	1	1.3
計	75	100.0

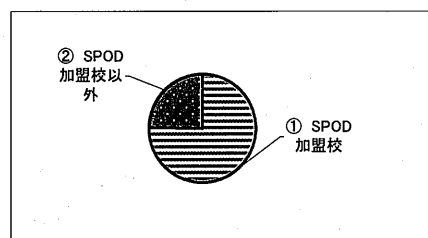
(5) 現在のあなたにとってレベルアップが必要な知識・スキルは何ですか。(具体的に)

別紙参照

2. SPODについて

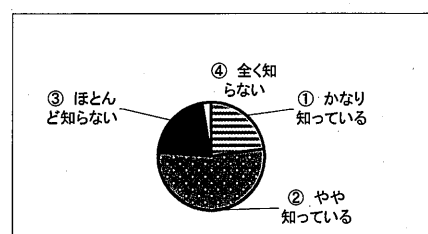
(1) 所属先はSPOD加盟校ですか

	度数	割合
① SPOD加盟校	58	75.3
② SPOD加盟校以外	19	24.7
③ わからない	0	0.0
計	77	100.0



(2) SPODの事業についてどの程度ご存知ですか

	度数	割合
① かなり知っている	17	22.7
② やや知っている	40	53.3
③ ほとんど知らない	16	21.3
④ 全く知らない	2	2.7
計	75	100.0



3. SPODフォーラムについて

(1) SPODフォーラムについてどこで知りましたか(複数選択可)

	度数	割合
① SPODホームページ	17	22.1
② SPODメールマガジン	5	6.5
③ SPODフォーラムチラシ	23	29.9
④ SPOD研修プログラムガイド2009	20	26.0
⑤ SPOD関係者からの案内	42	54.5
⑥ その他()	4	5.2
アンケート回答者数	77	

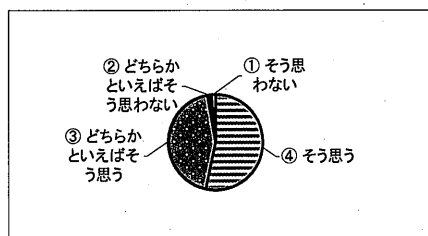
(2) SPODフォーラムに参加した動機は何ですか(複数選択可)

	度数	割合
① 自分自身の能力開発のため	56	72.7
② 組織の課題を解決するヒントを得るため	30	39.0
③ 組織を超えた人脈づくりのため	8	10.4
④ FDやSDに関する情報収集のため	32	41.6
⑤ 上司に参加をすすめられたため	17	22.1
⑥ その他()	1	1.3
アンケート回答者数	77	

4. SPODフォーラムのプログラムについて

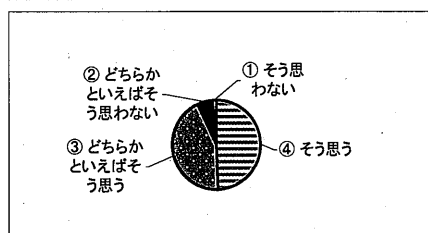
(1) 魅力的な講師陣がそろっていた

	度数	割合
④ そう思う	39	53.4
③ どちらかといえばそう思う	32	43.8
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	1	1.4
計	73	100.0



(2) 職場で使える実践的な内容の研修が充実していた

	度数	割合
④ そう思う	36	49.3
③ どちらかといえばそう思う	32	43.8
② どちらかといえばそう思わない	4	5.5
① そう思わない	1	1.4
計	73	100.0



(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	32	43.8
③ どちらかといえばそう思う	34	46.6
② どちらかといえばそう思わない	6	8.2
① そう思わない	1	1.4
計	73	100.0

(4) 組織を超えた交流を持つことができた

	度数	割合
④ そう思う	25	35.7
③ どちらかといえばそう思う	27	38.6
② どちらかといえばそう思わない	11	15.7
① そう思わない	7	10.0
計	70	100.0

(5) 参加しやすい開催日程(9/8～11)だった

	度数	割合
④ そう思う	27	37.0
③ どちらかといえばそう思う	36	49.3
② どちらかといえばそう思わない	8	11.0
① そう思わない	2	2.7
計	73	100.0

(6) スタッフは手際よくフォーラムを運営していた

	度数	割合
④ そう思う	44	62.9
③ どちらかといえばそう思う	26	37.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0

(7) SPODフォーラムは全体的に満足できるものだった

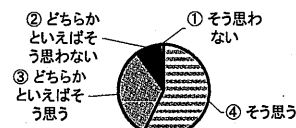
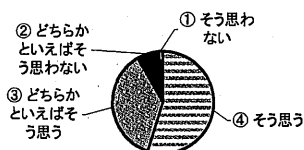
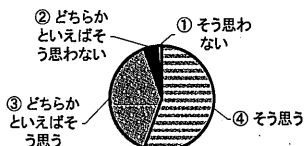
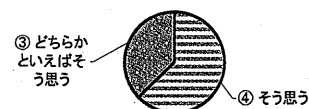
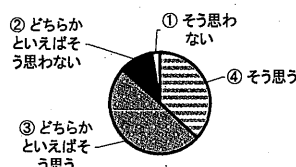
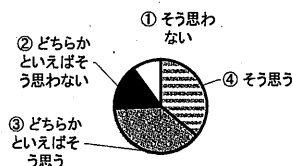
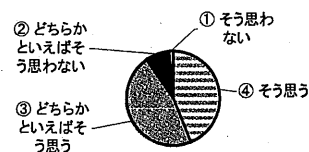
	度数	割合
④ そう思う	40	55.6
③ どちらかといえばそう思う	28	38.9
② どちらかといえばそう思わない	3	4.2
① そう思わない	1	1.4
計	72	100.0

(8) 来年もSPODフォーラムに参加したい

	度数	割合
④ そう思う	39	54.9
③ どちらかといえばそう思う	26	36.6
② どちらかといえばそう思わない	5	7.0
① そう思わない	1	1.4
計	71	100.0

(9) 知人にもSPODフォーラムへの参加をすすめたい

	度数	割合
④ そう思う	40	57.1
③ どちらかといえばそう思う	23	32.9
② どちらかといえばそう思わない	6	8.6
① そう思わない	1	1.4
計	70	100.0



1参加者ご自身について

(5)現在のあなたにとってレベルアップが必要な知識・スキルは何ですか

1	1 勇気
2	2 プレゼンテーション能力(11)
3	3 企画力(4)
4	4 部下の教育力
5	5 コミュニケーション力(3)
6	6 DP、CP作成のためのスキル
7	7 3つのポリシーの実質化
8	8 FD運営のテクニック
9	9 FD推進能力(2)
10	10 FD・SDの知識(事例等)(2)
11	11 情報収集能力
12	12 全学教育・初年次教育の企画
13	13 FDと事務の関わり(手法・実行力)(3)
14	14 データ分析能力(2)
15	15 パソコンスキル(エクセルによる関数計算による作表など)(2)
16	16 ゼミなど演習科目の運営方法
17	17 講義形式の手法(グループワークなど)(6)
18	18 学生支援のためのメンタル的ケア、接し方
19	19 研究室運営、卒業研究指導
20	20 問題発見能力
21	21 興味・やる気をおこさせるスキル
22	22 臨床実習における効果的な支援スキル
23	23 学生ニーズ・現状把握
24	24 大学改革の知識
25	25 授業改善をサポートするために裏付けとなる知識とその具体的な手法
26	26 聞く・話す力
27	27 学生支援の方法・助言の方法
28	28 効果的な授業アンケートの実施方法(2)
29	29 公開授業の利用法・運営法
30	30 管理能力
31	31 説得力

32	組織の動かし方
33	討論する力
34	コーチング
35	話し方
36	参加型にする方法
37	FDerとして基礎力養成
38	大学教育の現状把握
39	ファシリテーション力
40	アクティブラーニングの技術
41	マネジメント力
42	経理知識
43	授業改善を中心としたFD能力

5. SPODフォーラムに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

1	普段聴くことのできない情報をいただくことができた(2)
2	授業改善を中心としたFD能力(自信の授業力に加えそれを学内へ浸透させるノウハウ)が向上した
3	組織を超えていろいろな教職員と知り合いになれた、交流を深めることができた、意見交換できた、いろいろ共有できた(9)
4	同僚性やPeer reviewの精神が講座以外でも実践されていて初対面の方たちとすぐに打ち解けて話がはずみ、そこからアイデアをもらえたり発見ができたりした
5	高等教育の現状がよくわかった
6	FDerとして自ら自校で研修を行う際に手本となる研修だった
7	話上手な講師がそろっていた(4)
8	中村文子氏の研修がよかった
9	体験型のグループワークがよかった(3)
10	他大学の実践的な事例を多く勉強できたこと(4)
11	他組織の取り組みの現状を広く知ることができた(2)
12	所属組織の問題点が明確になった
13	一コマの組み立て方法、聴き手の記憶に残る手法等参考になった
14	大学職員として必要な能力、自分自身の弱点を再認識することができてよかった
15	具体的なテーマ設定(身近な視点からの論及であったこと)
16	事例を出して、解説及び説明がなされたので、理解しやすかった
17	ティーチングポートフォリオの知識を得ることができた(2)
18	日々の活動にすぐ使えるものをたくさん勉強できました、すぐに持ち帰り使える(5)
19	これだけの内容を無料でできるのはとても有り難い(2)

20	愛媛大学の施設をみれたこと
21	職員もFDにどう関わっていくかについての必要性和関わり方のコツを学べた事
22	非常に勉強になりました。今後に役立てたいと思います。
23	楽しくまなべた
24	自己啓発の指針となった(3)
25	SPOD加盟校の参加可が有り難かった(3)
26	すぐれた取り組みなので、今後もぜひ継続してほしい
27	先行事例とてい大いに参考になりました

6. SPODフォーラムをよりよいものとするため改善点があれば、具体的にお書きください。また開催日程や会場等についてご要望がございましたら、あわせてお書きください

1	遠方から来る人もいるので、大きい荷物などを預けられる場所が欲しい(2)
2	日程は週末を活用していただけるとより参加しやすい(3)
3	若い職員が参加できる講座があれば良いと思いました
4	建物の場所がわかりにくかったので、もう少し通路に案内を出していただけたら助かった
5	広報啓発をしていただきたい
6	総合大学と単科・短期大学とに分けたプログラムがあるとよい
7	内容によっては1時間コマがあってもよいのでは
8	到達目標があることはすばらしいが、それが適切であったか検証する必要がある
9	セッションによっては組み立てや話し方を工夫されたほうが良いと思えるものもあったので、仲間同士で事前検討されたほうがよいのでは
10	休憩時間をしっかりとって欲しい
11	新任教員への研修をいれるべき
12	事前準備物が必要な講義があるということが伝わりにくかった
13	遠隔授業の分で、遠隔不可に変更になった授業があり同僚が受講機会を逃した
14	9月の第1、2週の開講がよい 3週以降だと講義が始まるため参加が困難である
15	授業内での時間配分を考えて欲しい
16	印刷した資料は配付するべき
17	全セッションの資料を入手できるブースがほしい
18	大変魅力的な講師がいた一方、担当内容への知識がいささか不十分な方もいた
19	セッション間の休みを20分にしてくださいと参加しやすくなる(JR、バスの時間の関係から)
20	初めて参加した人にもわかるようにしてほしい
21	長時間の講義での、イスが不快

7. SPODの事業全般についてご意見やご要望があれば、ご自由にお書きください

1	次回以降もこのようなプログラム(フォーラム)があれば参加したい(2)
2	今後の発展と展開を期待したい
3	SPOD加盟校以外にも広く公開してほしい
4	参加するだけで、授業の質向上に役立つような、即効性のあるスキルやソフトなども得られるなら非常にうれしい
5	長く続けて欲しい、小規模校にとってはありがたい
6	発達障害者に対するFD支援に関するプログラムを開催してほしい
7	運営スタッフの方のご苦勞に感謝します。全体の運営がすばらしかった
8	とても充実した時間を過ごすことができました

SPODフォーラムアンケート(個別プログラム用)集計結果

セミナー名: 個別プログラム用アンケート_合計 (但し: 立川明先生のプログラム独自アンケートのため合計から除く)

講師名:

実施日: 平成21年9月8日(火)～11日(金)

実施会場: 愛媛大学

事前申込者数: 870名

当日参加者数: 885名

アンケート回答者数: 749名

回答率: 84.6%

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 4年制大学	660	88.4
② 短期大学	43	5.8
③ 高等専門学校	27	3.6
④ その他()	17	2.3
計	747	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	380	51.0
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	89	11.9
③ 学校法人	262	35.2
④ その他()	14	1.9
計	745	100.0

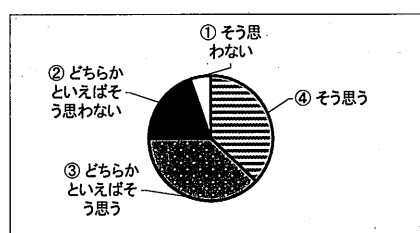
(3) 職種

	度数	割合
① 教員	350	47.1
② 職員	349	47.0
③ 学生	25	3.4
④ その他()	19	2.6
計	743	100.0

2. このセミナーについて

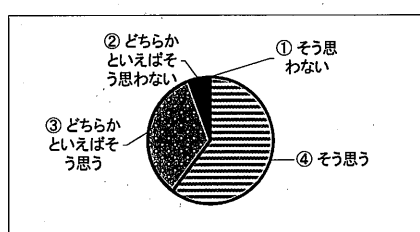
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	276	36.9
③ どちらかといえばそう思う	285	38.1
② どちらかといえばそう思わない	148	19.8
① そう思わない	39	5.2
計	748	100.0



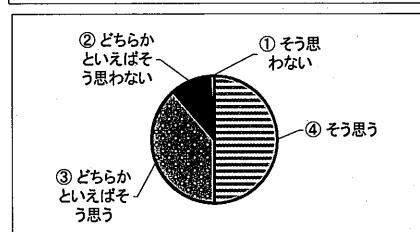
(2) 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	449	60.3
③ どちらかといえばそう思う	254	34.1
② どちらかといえばそう思わない	38	5.1
① そう思わない	4	0.5
計	745	100.0



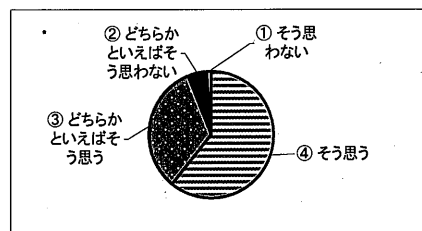
(3) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	371	49.9
③ どちらかといえばそう思う	288	38.8
② どちらかといえばそう思わない	76	10.2
① そう思わない	8	1.1
計	743	100.0



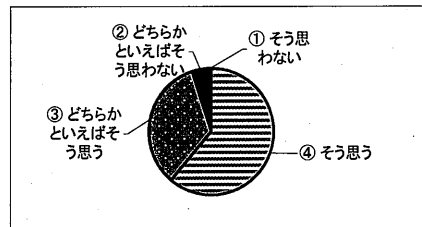
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	451	60.7
③ どちらかといえばそう思う	247	33.2
② どちらかといえばそう思わない	37	5.0
① そう思わない	8	1.1
計	743	100.0



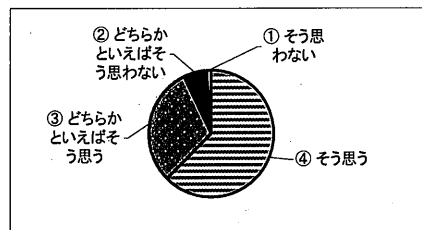
(5) 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④ そう思う	455	61.1
③ どちらかといえばそう思う	252	33.8
② どちらかといえばそう思わない	34	4.6
① そう思わない	4	0.5
計	745	100.0



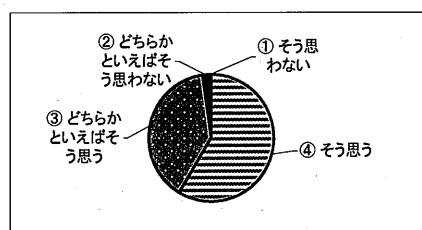
(6) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	464	62.4
③ どちらかといえばそう思う	225	30.3
② どちらかといえばそう思わない	46	6.2
① そう思わない	8	1.1
計	743	100.0



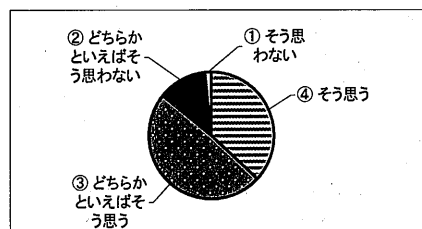
(7) 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④ そう思う	434	58.6
③ どちらかといえばそう思う	291	39.3
② どちらかといえばそう思わない	14	1.9
① そう思わない	2	0.3
計	741	100.0



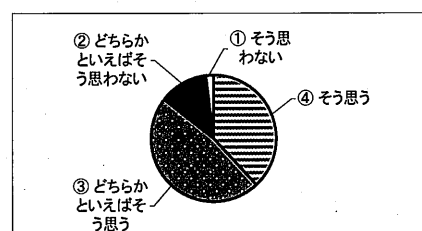
(8) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	274	36.9
③ どちらかといえばそう思う	363	48.9
② どちらかといえばそう思わない	93	12.5
① そう思わない	13	1.7
計	743	100.0



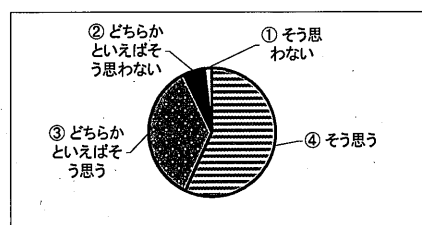
(9) 受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	284	38.1
③ どちらかといえばそう思う	354	47.5
② どちらかといえばそう思わない	94	12.6
① そう思わない	14	1.9
計	746	100.0



(10) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	421	56.8
③ どちらかといえばそう思う	266	35.9
② どちらかといえばそう思わない	40	5.4
① そう思わない	14	1.9
計	741	100.0



SPODフォーラムアンケート(個別プログラム用)集計結果

セミナー名:【遠隔】個別プログラム用アンケート_合計

講師名:

実施日:平成21年9月8日(火)～11日(金)

実施会場:

事前申込者数:66名

当日参加者数:71名

アンケート回答者数:70名

回答率:98.6%

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 4年制大学	17	24.3
② 短期大学	53	75.7
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	70	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	9	12.9
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	5	7.1
③ 学校法人	56	80.0
④ その他()	0	0.0
計	70	100.0

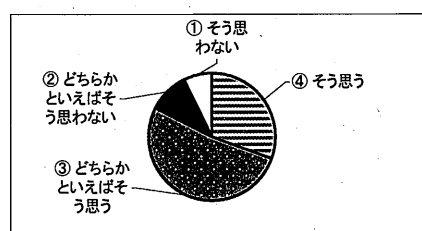
(3) 職種

	度数	割合
① 教員	64	91.4
② 職員	5	7.1
③ 学生	0	0.0
④ その他()	1	1.4
計	70	100.0

2. このセミナーについて

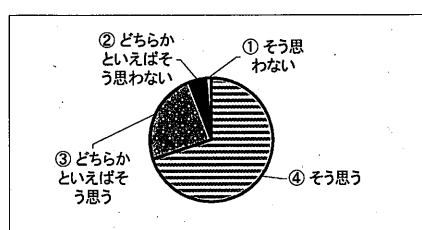
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	21	30.4
③ どちらかといえばそう思う	36	52.2
② どちらかといえばそう思わない	7	10.1
① そう思わない	5	7.2
計	69	100.0



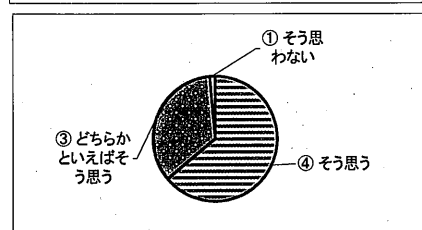
(2) 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	49	70.0
③ どちらかといえばそう思う	17	24.3
② どちらかといえばそう思わない	3	4.3
① そう思わない	1	1.4
計	70	100.0



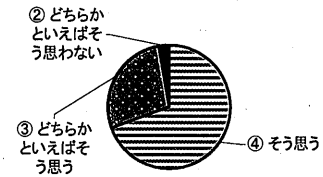
(3) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	44	63.8
③ どちらかといえばそう思う	24	34.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	1.4
計	69	100.0



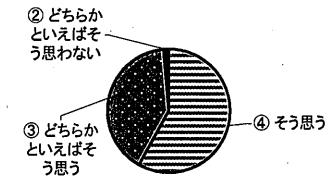
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	48	69.6
③ どちらかといえばそう思う	19	27.5
② どちらかといえばそう思わない	2	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



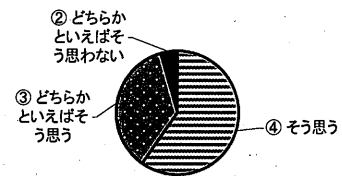
(5) 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④ そう思う	40	58.0
③ どちらかといえばそう思う	28	40.6
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



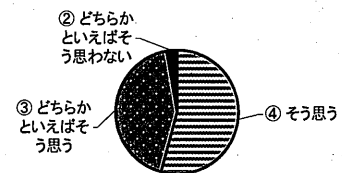
(6) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	40	59.7
③ どちらかといえばそう思う	24	35.8
② どちらかといえばそう思わない	3	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	67	100.0



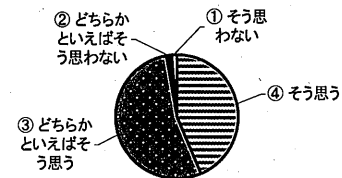
(7) 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④ そう思う	38	54.3
③ どちらかといえばそう思う	30	42.9
② どちらかといえばそう思わない	2	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



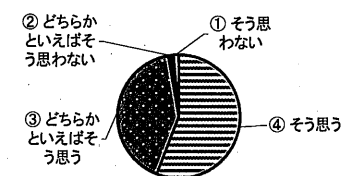
(8) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	30	43.5
③ どちらかといえばそう思う	37	53.6
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	1	1.4
計	69	100.0



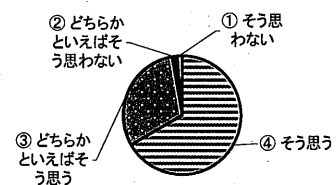
(9) 受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	39	55.7
③ どちらかといえばそう思う	29	41.4
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	1	1.4
計	70	100.0



(10) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	46	66.7
③ どちらかといえばそう思う	21	30.4
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	1	1.4
計	69	100.0



平成21年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

総会及びFD／SD分科会 開催要項

【総 会】

日 時 平成21年9月11日（金）10時00分～

（受付9時30分～）

場 所 愛媛大学グリーンホール（城北キャンパス）

出席者 加盟校 各大学長、短期大学長、高等専門学校長 等

10：00 開 会

出席者紹介

10：10 代表校挨拶 柳澤 康信 愛媛大学長

10：20 事業進捗状況報告と今後の計画について

佐藤浩章 愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長

（文部科学省戦略的大学連携支援事業 事業推進責任者）

10：50 意見交換

【分科会】

日 時 平成21年9月11日（金）11時00分～

（総会後、会場を移動して開催）

場 所 FD分科会 愛大ミューズ2階 M23教室

SD分科会 愛大ミューズ3階 M31教室

出席者 加盟校 FD／SD担当者 等

内 容 ・今後の具体的な事業の進め方について

・意見交換

SPODが目指す 大学教職員の能力向上

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
2009.09.11

文部科学省 平成20年度戦略的大学連携支援事業
事業推進責任者
愛媛大学教育・学生支援機構
教育企画室 副室長 佐藤 浩章

1. SPOD活動の趣旨

四国地区の34大学・短期大学・高等専門学校が連携
してネットワーク事業を展開することにより、

域内のFD／SD事業の効率化、高度化、実質化を行う。

これにより、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的
力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出し、
教育の質の保証を図る。

3

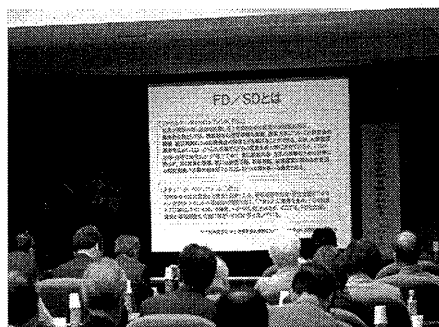
内 容

1. SPOD活動の趣旨
2. 2008年度/2009年度(前半)

全体総括

- (1) 成果のハイライト
- (2) 事業評価委員会
の意見
- (3) 総括

3. 今後の計画について



ネットワーク設立総会

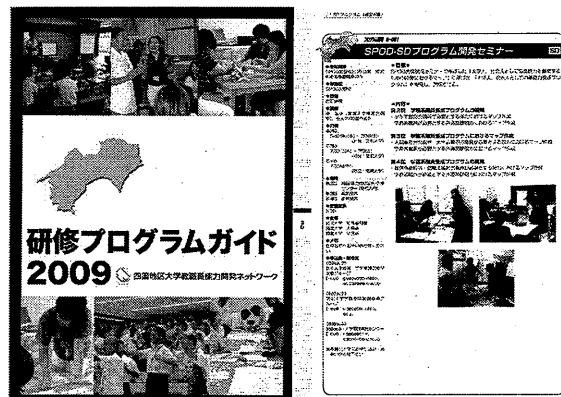
2

2. 2008年度及び 2009年度前半の全体総括

(1) 成果のハイライト

① プログラムの体系化を目指した統一ガイドブックの作成

SPOD内で開催され、かつ加盟校の参加可能なFD/SDプログラムを網羅的に掲載(全53講座)。加盟校の全教職員に配付しており、希望するプログラムを探して直接申込みが可能。



5

③ FDプログラムの標準化

新任教員研修／プレFDプログラム

- 7～9月 愛媛大・徳島大・高知大の新任教員研修を県内に開放
 - ※ 現在、内容のすりあわせを行っている。
 - ※ 今後は、年1～2回、4県でほぼ同内容の研修の定期開催を予定。
- 11月 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ in 愛媛
 - ※ SPOD加盟校に開放。

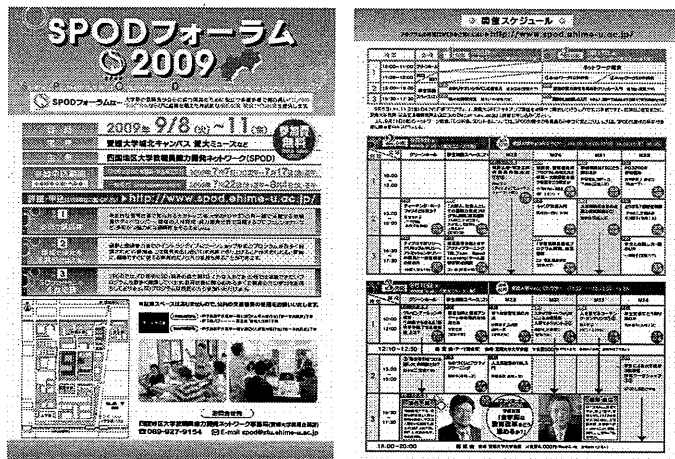
FDer研修

- 6月 FDファシリテーター講座 in 東四国(徳島・香川)
- 10月 FDer養成講座 in 西四国(愛媛・高知)
- ※ 今後は、年2回、2か所で、同内容の研修の定期開催を予定。

7

② SPODフォーラムの実施 (2009.9.8～11)

あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを4日間で集中的に提供。加盟校教職員を中心に、全国から約400名が参加。



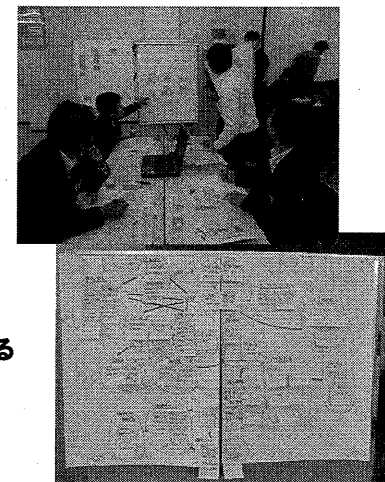
6

④ 職員によるSDマップの開発

SPOD-SDプログラムの開発・実施を円滑に進めるため、合宿セミナーを開催し、協働でSDマップを作成。

(セミナーの内容例)

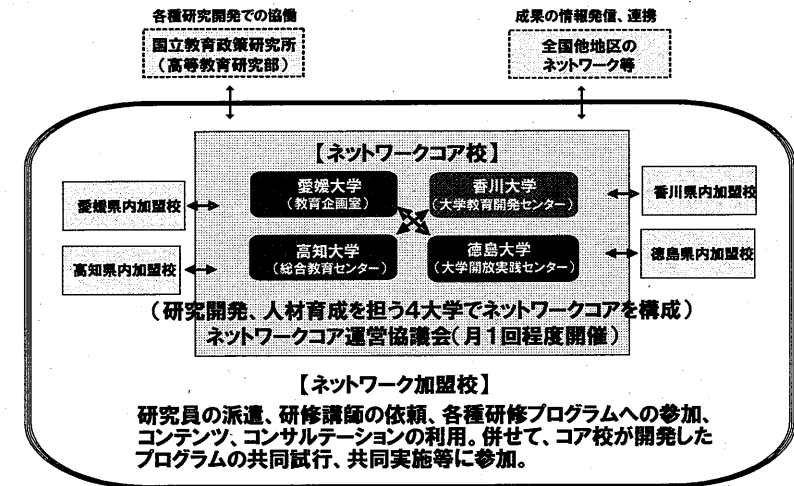
1. 説明
「SDプログラム開発事業の概要について」
2. アイス・ブレイク
3. グループ討論
テーマ①「各大学・短大・高専の事務職員を取り巻く現状・問題点について」
テーマ②「各大学・短大・高専が求める職員像(資質と能力)について」
4. グループ活動
「大学人・社会人としての基礎力を養成するための開発におけるマップ作成」
5. 説明
「今後のSDプログラム開発の進め方」



(例) 大学人・社会人としての基礎力の養成に必要な項目

プログラム名	区分	単位		
自大学業務概論	1	1	I-K	他部署の業務の必要性を理解する
	2	1	I-A	他部署の研修に参加する
スタッフ・ポートフォリオ入門	1	3	I-K	スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)の必要性を理解する
			I-S	スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)を作ることができる
職員キャリア形成入門	1	2	I-K	自分のことを理解することができる
			I-S	キャリアプランニングができる
			I-A	人間力を養成する
			I-A	大学人(高専人)力を養成する
			I-S	自己管理を行なうことができる
ビジネスマナー入門編	1	1	I-K	文章の書き方を理解する
			I-S	文書を分かりやすく整理できる
			I-S	一般的なビジネス文書が作成できる
			I-S	議事録を作成することができる
			I-S	必要な資料の準備ができる
			I-S	ポイントメモをとる
	2	2	I-S	正しい言葉遣いができる
			I-S	危機管理についての基本的知識がある
			I-S	整理整頓ができる
			I-S	基本的な電話対応ができる
			I-S	基本的な接客対応ができる
			I-A	あいさつができる
			I-A	社会人らしい服装ができる
			I-A	報告・連絡・相談ができる(休暇をとる前の準備・引継ぎができる)
			I-A	コスト意識を持っている
			I-A	時間を守る
			I-S	質問等に的確に対応できる
			I-S	分からないことをきちんと調べることができる

⑤ コア校を中心とした各県でのネットワーク体制整備



【四国地区大学教職員能力開発ネットワーク】

11

SPOD-SDプログラム開発経過

○ SPOD-SDプログラム開発セミナーの実施

回数	日時	場所	テーマ	参加数
第1回	平成21年1月30日～31日	愛媛	「大学人、社会人としての基礎力養成」	14機関 31名
第2回	平成21年5月29日～30日	香川	「学生支援担当職員、学務系共通基礎能力養成」	19機関 43名
第3回	平成21年7月2日～3日	高知	「入試事務担当、大学広報担当職員、学務系共通基礎能力養成」	13機関 40名
第4回	平成21年7月28日～29日	徳島	「教務事務担当、就職支援担当職員、学務系共通基礎能力養成」	9機関 33名
第5回	平成21年8月17日～19日	徳島	「学務系職員養成プログラム開発」(第2～4回のまとめ)	6機関 20名

○ SPODフォーラム(平成21年9月9日)での現況報告

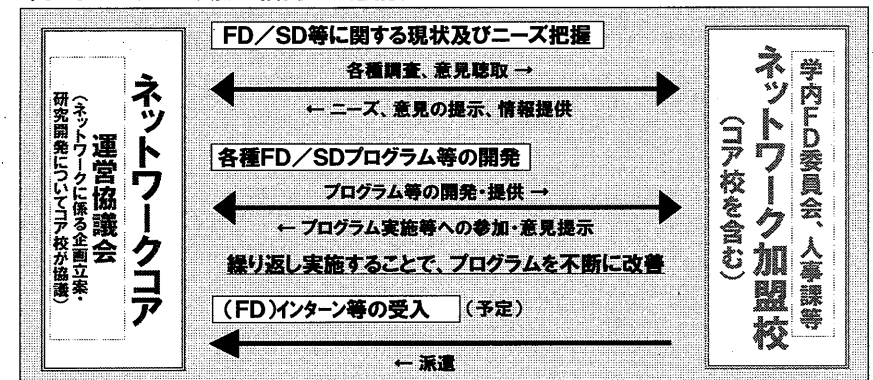
「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム開発」(愛媛大学)
「学務系職員養成プログラム開発」について(徳島大学)

○ 今後の予定

・～21年11月「大学人、社会人としての基礎力」、「学務系職員」、
「経営者・管理者」、「次世代リーダー」の各養成プログラムの
完成及び「職員業績記録」の開発
12月 成果報告会①(意見交換)
22年 1月 成果報告会②(最終報告)

【連携内容】

(ネットワークコア、加盟校間での連携)



(参加校相互での連携(コア校、加盟校を問わない))

研修講師派遣、職員人事交流、他地区等実地調査報告、情報交換 等
【体制が整い次第、可能な大学等から実施】

12

ネットワークコア運営協議会

ネットワークコア校(徳島大学、香川大学、高知大学、愛媛大学)のFD/SD担当者(教員、職員を問わず)が月1回程度集合し、事業の実施、運営上の諸課題等について協議。

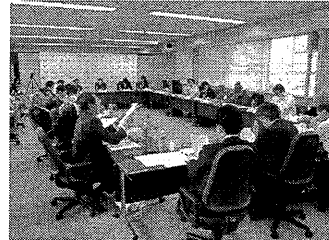
【開催実績】

平成20年度

回数	日時	参加者数
第1回	平成20年9月24日	13名
第2回	平成20年12月9日(SD) 平成20年12月18日(FD)	(SD) 14名 (FD) 12名
第3回	平成21年3月6日	23名

平成21年度

回数	日時	参加者数
第1回	平成21年4月20日	32名
第2回	平成21年5月27日	28名
第3回	平成21年6月23日(SD) 平成21年6月25日(FD)	(SD) 18名 (FD) 17名
第4回	平成21年8月27日	30名



ホームページの開設による情報提供(21年2月～)



- ネットワークの実施する事業内容、イベント等の情報発信
- ネットワーク加盟校間の情報交換
- FD/SDに役立つ各種様式等の提供
- アーカイブ化した研修コンテンツ
- 研修講師一覧の提供

加盟校全体で行う連携を円滑に行う仕組みを構築

サイトの充実と利用促進が課題

<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

15

県内加盟校会議等

【県内加盟校会議等】

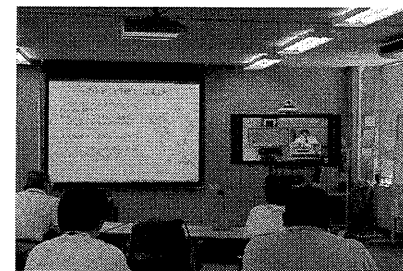
各県において、コア校を中心に、県内加盟校の担当者が集合し、上記協議会に係る報告や各県固有の課題等についての協議を実施。

【開催実績】

会議名	平成20年度			平成21年度		
	回数	日時	参加数	回数	日時	参加数
徳島県下FD担当者会議	第1回	平成20年11月19日	7機関 10名	第1回	平成21年4月30日	7機関 12名
	第2回(メール)	平成20年12月24日	7機関 10名	第2回	平成21年6月4日	7機関 13名
	第3回	平成21年1月26日	8機関 12名	第3回	平成21年8月3日	8機関 12名
	第4回	平成21年3月24日	8機関 14名			
香川県内SPOD加盟校担当者打合せ会	—			第1回	平成21年4月17日	8機関
愛媛県内加盟校会議	第1回	平成21年2月24日	11機関 31名	第1回	平成21年7月15日	10機関 27名
高知県内ネットワーク運営協議会	第1回	平成21年2月13日	5機関 15名	第1回	平成21年6月3日	5機関 11名

遠隔講義システムの整備

コア校等で実施する研修を自大学等にしながら受講することが可能。このほか、会議等でも利用が可能。



システムを用いた研修の受講の例
(配信: 今治明德短期大学 → 受信: 高知女子大学)

- 全補助金受給校で遠隔講義システム(SONY PCS-1,G50)を導入。
- その他の加盟校についても、学内に、互換性のある機器が整備されている場合には、受信が可能。
- 20年度は主に多地点接続のための試行的配信に留まる。
→ 21年度は受信希望校に合計15講座の配信を予定。

16

⑥ その他

○ 加盟校間の講師派遣システムの構築

他の加盟校からの依頼に応じ、研修ニーズに合致した講師を派遣。FDに関する相談に応じるコンサルテーションも実施。

○ SPODで行うFD及びSDの定義の確立

SPODにおける各種の活動や方向性を定める上で重要であるFD及びSDの定義を確立した。

(例:SPODにおけるFDの定義)

FDとは、教育・学習効果を最大限に高めることを目指した、
(1) 授業改善、(2) カリキュラム改善、(3) 組織整備・改革
への組織的な取組の総称

17

② 20年度事業実績に対する委員の意見と事業への反映

○ 各活動に対する総括の必要性

→ 総会での総括と次年度報告書の工夫。

○ 遠隔システム等情報ツールの活用と情報提供の充実による交流拡大の必要性

→ 遠隔システムによる研修プログラムの配信。メールマガジンの発行。SPODフォーラムでのテーマ別昼食会の設置。

○ 学校種別、規模別での加盟校ニーズ整理の必要性

→ 今後、詳細な調査を実施し、加盟校ニーズに対応。

○ FDとSDの連携の必要性

→ FD/SD合同での会議実施。SPODフォーラムの各プログラムでの参加対象制限を撤廃。

◎ すでに実績をもつコア校がリードすることのメリット

◎ ティーチングポートフォリオとスタッフポートフォリオへの期待

→ 強みや期待を踏まえつつ、今後も計画的に事業を実施。

19

(2) 事業評価

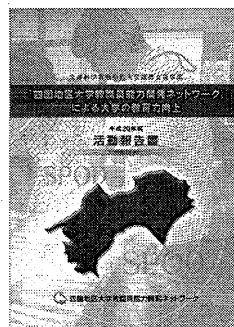
① SPOD事業評価委員会

外部有識者3名を含む委員会が、SPODが作成した活動報告書をもとに書面により事業評価。その評価結果をもとに事業を改善。

【委員会委員(2008年度)】

井上 真琴 大学コンソーシアム京都 副事務局長
小田 隆治 山形大学高等教育研究企画センター 教授
曾田 紘二 徳島大学教授、大学開放実践センター長
高瀬 恵次 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長
農学部教授
夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター 教授

(敬称略 五十音順)



18

(3) 総括

① FD...計画どおり順調に進展

課題: ティーチング・ポートフォリオ
ワークショップの開催と評価

② SD...計画どおり順調に進展

課題: スタッフポートフォリオの開発、
キャリアアッププログラム

③ ネットワーク体制...計画どおり順調に進展

課題: 遠隔会議システムの活用、
WEBサイトの充実

3. 今後の計画について

平成20年度

ネットワークの確立とFD/SD共同実施に向けた各種準備

平成21年度

各種FD/SDプログラムの試行

平成22年度

FDerの組織的な養成と標準的FD/SDプログラムの本格実施

平成23年度以降(国による財政支援期間終了後)
教職員能力開発を目的とした「高等教育専門職型大学院」の
共同設置を目指した、スタッフやプログラムの充実

21

○ 22年度の事業計画(SD)

FDerの組織的養成と標準的FDプログラムの本格実施

S-1:SDプログラムの開発, 実施

(a)経営管理者養成プログラムの実施

(b)専門職養成プログラムの開発

学生支援担当, キャリア支援担当等の養成プログラムを実施すると共に, 他分野のプログラムについても開発を開始。

(c)次世代リーダー養成プログラムの開発, 実施。

S-3:職員キャリアアップサポートの実施

人事交流の実施促進。さらに円滑な受入体制等を継続的に検討。

23

○ 22年度の事業計画(FD)

FDerの組織的養成と標準的FDプログラムの本格実施

F-1:FDerの養成

ネットワークコアで策定した養成プログラムを実施し, 修了者にFDer資格の付与を開始。また, 大学院生やポスドクを対象としたインターンシップを実施。

F-2:新任教員及び大学院生, ポスドク向け標準的(プレ)FDプログラムの開発, 実施

各大学の新任教員を対象に, 標準化されたプレFDプログラムを実施。

F-3:各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発, 実施

ネットワークとして体系化・標準化したFDプログラムの実施。

F-4:教育業績記録(ティーチング・ポートフォリオ)の開発

ティーチング・ポートフォリオの共通仕様の見直し等。

22

○ 概ね10年を見通した将来目標(イメージ)①

教職員能力開発を目的とした「高等教育専門職型大学院」の
共同設置を目指した、スタッフやプログラムの充実

(1) 各大学での教育改革に貢献するFDer

コア校, 加盟校とも, ネットワーク事業を通じて養成されたFDer有資格者が, 学内での (a) 授業改善, (b) カリキュラム改善, (c) 組織改善 の企画立案の支援にあたり, 学内教育改革を推進。本ネットワークは, 講師派遣や必要な情報提供など, 各大学のFDerの活動を支援。

24

○ 概ね10年を見通した将来目標(イメージ)②

教職員能力開発を目的とした「高等教育専門職型大学院」の
共同設置を目指した、スタッフやプログラムの充実

(2) 専門職型大学院の共同設置

コア校は、ネットワークで連携して行った研究開発実績をベースに、大学院生やポスドク、現職の大学教職員などを対象とした「高等教育専門職型大学院」の共同設置を目指す。

現在のところ、当該研究科の内容として、FDer養成コース、一般教員向け大学教員資格取得コース、高等教育経営者養成コース、学生支援・入試広報等の各種専門職養成コースを想定。

25

学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった
「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出します！
ご期待下さい！



四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

SPOD = Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education

○ 概ね10年を見通した将来目標(イメージ)③

教職員能力開発を目的とした「高等教育専門職型大学院」の
共同設置を目指した、スタッフやプログラムの充実

(3) 全国他地区ネットワークとの連携協力と研究開発 成果の普及、発展

全国他地区のネットワークと連携を図ることで、四国地区の
ネットワークで標準化、体系化した人材養成プログラムや
FDerの資格要件などの研究開発成果を普及、発展。

26

■ 平成21年度総会における加盟校からの意見

(香川短期大学)

○ 小規模校ではスタッフ数が限られており、遠隔会議等ばかりが実施されるようになると、システムの操作だけで人手をとられてしまい、対応が困難になる。直接集まって交流する会議や研修会は減らさないでほしい。

→ 我々も試行錯誤しながらやっている。できるだけ配信先の負担にならないようマニュアル化を検討している。また、我々も対面型で研修を行うことや一同に介して意見交換することは大事だと考えている。

(愛媛県立医療技術大学)

○ 専門職型大学院やF D e rの資格とはどのようなものを想定しているか。

→ まだイメージ段階ではあるが、コア校が共同して大学院をつくっていきたいと考えている。また、F D e rの資格とは、S P O Dで開発した体系化されたプログラムを受講した証明として、S P O D内での資格となるものを考えている。このほか、新任教員についても、標準化されたプログラムの履修による証明、いわば大学教員版の教員免許のようなものが出せないかと考えている。

(徳島大学)

○ 今は、開発、試行の段階だが、今後は研修の体系化・標準化、そのためのアーカイブ化やガイドブックの作成をしてほしい。さらにはそれらが普及、定着していくことを望んでいる。補助事業終了後もこの取組を続け、先に述べたプロセスを順調に進めてほしい。大学としてこの取組に感謝している。

→ コア校のスタッフはこの取組に力を注いでいる。加盟校やそのF D委員会等へのサポートもしていきたい。また、S Dについては、総務系・人事系からのサポートもお願いしたい。このほか、F DやS Dの受講成果を人事評価に組み込んでもらえるようになれば、F DやS Dの普及効果も高くなると思われるので、ぜひご検討を願いたい。

(高知工業高等専門学校)

- 教育改善のみならず、進路指導を含めた学生指導を行うための資質を高めるプログラムの開発、普及もお願いしたい。

→ 小規模校や高専からのニーズもあり、SPODフォーラムにおいて学生支援のプログラムを多く組み込んだ。また、高専独自のニーズもあると思う。今後のプログラム開発においてぜひお手伝い願いたい。

(徳島大学)

- 学校種別、規模別に話をする場があればよいと思う。

→ 来年度以降の昼食会やセミナーでの実施を検討したい。

また、10月に西四国地区で開催するFDer養成講座でも、設置者別、規模別のグループワークの実施を検討している。

(香川短期大学)

- 組織運営の在り方（委員会の数は少ない方がいい 等）に関するプログラムもあればありがたい。

→ 現在はミクロレベルのプログラムが多い。マクロレベルのFDは今後の課題である。

次年度以降の活動にはそうしたものを取り込んでいくことになると思う。

SPOD 加盟校訪問時の意見・要望

(松山短期大学)

○大学によって事情が異なるので、短期大学だけで集まるようなことも行ってほしい。

(阿南工業高等専門学校)

(要望)

○現在、遠隔講義システム配信時に質問者を写しているが、講師から質問者の方へカメラを回した場合、その動きや焦点が一旦合わなくなる等で、受講者が大変見づらい(質問者の音声は必要)。

○遠隔会議システムを受講する側のマニュアルを作成してほしい。

○研修ガイドブックの内容が分かりづらいものが一部プログラムであった。

○ワーク型の研修方式を続けてほしい。

○できる限り研修時期の周知時期を早くしてほしい。→研修ガイドブックで対応

(意見)

○SPOD フォーラムでは、規模の小さな大学等に配慮した昼食会テーマを設けていただき、ネットワークづくりに大変役立った。

FD 分科会議事概要

日 時：平成21年9月11日（金）

場 所：愛媛大学愛大ミュージズ2階M23教室

出席者：別紙出席者名簿参照（省略）

議題等：

1. SPOD における FD の定義
愛媛大学佐藤准教授より資料①に基づき説明があった。
2. FD ニーズ把握アンケート
愛媛大学佐藤准教授より資料②に基づき説明があった。
3. FD マップ
愛媛大学佐藤准教授より「大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン」冊子に基づき説明があった。
4. 愛媛・徳島・高知の新任教員研修標準枠組み対応表
愛媛大学佐藤准教授より資料③に基づき説明があった。
5. 愛媛・徳島・高知の授業デザインワークショップにあたるものの日程表
愛媛大学佐藤准教授より資料④-1に基づき説明があった。
6. 愛媛・徳島の FDer 講座の日程表について
愛媛大学佐藤准教授より資料④-2に基づき説明があった。
7. 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ日程表について
愛媛大学佐藤准教授より資料④-3に基づき説明があった。
8. 愛媛大学ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの日程
愛媛大学佐藤准教授より資料⑤に基づき説明があった。
9. センター紀要の投稿呼びかけ文
愛媛大学佐藤准教授より資料⑥に基づき説明があった。
10. 出席者からの質問・意見など（「→」は、愛媛大学佐藤准教授からの回答）
 - ・ティーチングポートフォリオを作成するときは、エビデンスとなるものを見ながら作るのか。
→その通りである。

- ・ティーチングポートフォリオのエビデンスとなるものは、どんなものか。
→教育に関わるものならば、何でも構わない。例えば、授業評価アンケートや授業で個別に行ったアンケート、シラバス、自作の教材、学生の作った成果物、同僚からのコメントなど。
- ・ティーチングポートフォリオに社会的活動や、学外での講演は入るのか。
→基本的には、学内での授業や学生支援なので、社会貢献活動を含めることは一般的ではないが、作成者が教育の意図が強いと思う活動ならば、入れることも構わない。
- ・ティーチングポートフォリオを普及していくには、どうすればよいのか。
→全員に強制的にという形は、おすすめでできない。採用・昇進などのときに、書きたいと思った人がワークショップに参加して書くことに意味がある。
- ・ミドルレベルやマクロレベルの FD という話があったが、年に1回は、総会を持つなどして、学長など管理職や上層部に情報発信する必要があるのではないか。
→管理職の集まる機会に、うまく組み込んでいきたい。

(以上)

平成21年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」SD分科会 議事概要

日 時：平成21年9月11日（金） 11：00～11：45

場 所：愛媛大学 城北キャンパス 愛大ミューズ3階M31教室

出席者：別紙出席者名簿参照（省略）

議題等：

1. SDプログラム開発の現況報告について

（1）大学人・社会人としての基礎力養成プログラムについて

愛媛大学大谷人事課副課長から資料1-1に基づき、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」について現況報告があった。

（2）学務系職員養成プログラムについて

徳島大学出川学務課長から資料1-2に基づき、「学務系職員養成プログラム」について現況報告があった。

愛媛大学米澤人事課長から今後のSDプログラム開発について説明があった。

2. スタッフ・ポートフォリオの現況報告について

愛媛大学米澤人事課長から資料2に基づき、「スタッフ・ポートフォリオ」について現況報告があった。

3. SPODにおけるSDの定義について

愛媛大学米澤人事課長から資料3に基づき、「SPODにおけるSDの定義」について説明があり、原案のとおり承認された。

（以 上）

四国地区大学教職員能力開発ネットワークの ホームページ掲載資料の利用に関するガイドライン（案）

平成21年〇月〇日
ネットワークコア運営協議会決定

1. 趣 旨

このガイドラインは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）における加盟校間の連携及び本ネットワーク事業の活性化を図り、かつ、SPOD活動について社会一般的にも広く周知することを目的としてSPODのホームページに掲載している資料（以下「掲載資料」という。）の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 利用条件

掲載資料は、非営利目的においてのみ利用できるものとし、掲載資料を利用するときは、次の事項を遵守するものとする。

- (1) 掲載資料を改変しないこと。なお、技術的に再現困難な場合には、改変することを認めるが、内容は改変しないこと。
- (2) 必ず資料の出所（資料作成者名、資料名、研修会（会議）名等）の表示を行うこと。

（例）研修資料の場合

出典：小林直人「ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの開発と一貫性構築の進め方」SPODフォーラム2009資料

（例）会議資料の場合

出典：「SPODにおけるFDの定義について」平成21年度第3回SPODネットワークコア運営協議会資料

- (3) 掲載資料を引用の範囲を超える目的で利用する場合には、作成者の使用許諾を必ずとること。

※上記（3）の使用許諾が必要な方は、SPOD事務局（spod@stu.ehime-u.ac.jp）に所属、氏名、連絡先、使用許諾が必要な資料名、利用目的を記載し、申請してください（様式任意）。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約

〔平成20年10月18日
制 定〕

(名称)

第1条 本会は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education。以下「SPOD」という。）と称する。

(目的)

第2条 SPODは、四国地区の大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）の連携・協働により、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 SPODは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) FD／SDプログラム等の調査研究及び開発
- (2) FD／SDプログラム等の共同試行、共同実施
- (3) FDe r（ファカルティー・ディベロッパー）の養成
- (4) 参加大学等間における職員派遣等による交流
- (5) その他SPODの目的を達成するために必要な活動

(加盟校)

第4条 SPODは、別表第1に定める加盟校をもって構成する。

2 四国地区の大学等で、SPODの目的及び事業に賛同するものは、新たにSPOD加盟校となることができる。ただし、その大学等の所在する県のコア校の承認を得なければならない。

(コア校)

第5条 加盟校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

2 コア校は、共同でネットワークコアを形成して、第3条各号の事業を企画立案、実施するほか、各県内の加盟校からの意見の集約及び調整等を行う。

(その他の加盟校)

第6条 加盟校のうち、前条のコア校以外の大学等は、ネットワークコアの依頼に応じて、第3条各号の事業に参加する。

(代表校)

第7条 コア校のうち、1校をSPODの代表校とする。

2 代表校は、コア校の互選により選出する。

3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

(総会)

第8条 SPODに、総会を置く。

2 総会は、加盟校をもって構成し、代表校が招集する。

3 総会の議長は、代表校がつとめる。

4 加盟校は、当該加盟校を代表して総会に出席する者1人（以下「代表者」という。）を、事前に登録しなければならない。ただし、加盟校に所属する他の者が、事前に登録した者を代理し、又は総会に陪席することを妨げない。

5 総会は、次の事項を審議する。

- (1) SPODの活動方針及び活動報告に関すること。

(2) SPODの規約に関すること(ただし、別表を除く)。

(3) その他全加盟校による審議が望ましい事項

6 総会は、加盟校の過半数が出席しなければ、開会することができない。ただし、加盟校は、審議事項があらかじめ決定している場合においては、事前の意見提出をもって出席に代えることができる。

7 総会の議事は、出席の加盟校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(ネットワークコア運営協議会)

第9条 ネットワークコアに、ネットワークコア運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、コア校をもって構成し、原則として月1回程度開催する。

3 協議会は、次の事項を協議する。

(1) SPOD及びネットワークコアの活動に係る企画立案及び実施に関すること。

(2) ネットワークコアの行う研究開発、人材育成等に関すること。

(3) その他SPODに係る重要な事項

4 協議会における協議概要及び配付資料は、原則として加盟校に配付する。

(事業評価委員会)

第10条 協議会が作成した実績報告書を基に事業評価を行うため、協議会に、事業評価委員会(以下、「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、その委員の過半数をSPODの加盟校以外に所属する者により構成する。

3 委員会は、第1項に定める事業評価を行った後、その結果を協議会に報告する。

(事務局)

第11条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

(その他)

第12条 本規約に定めるもののほか、SPODの運営に関し必要な事項は、総会又は運営協議会が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成20年10月18日から施行する。

2 この規約の施行後、最初に任命される第7条第1項の代表校の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

3 別表は、新たな加盟校があった場合等に適宜改訂を行うものとする。

平成21年10月1日現在

別表第1 加盟校

徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
愛媛大学
高知大学
香川県立保健医療大学
愛媛県立医療技術大学
高知女子大学
高知工科大学
四国大学
徳島文理大学
四国学院大学
高松大学
聖カタリナ大学
松山大学
松山東雲女子大学
高知短期大学
四国大学短期大学部
徳島工業短期大学
徳島文理大学短期大学部
香川短期大学
瀬戸内短期大学
高松短期大学
今治明德短期大学
愛媛女子短期大学
聖カタリナ大学短期大学部
松山東雲短期大学
松山短期大学
高知学園短期大学
阿南工業高等専門学校
香川高等専門学校
新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校
高知工業高等専門学校

別表第2 コア校

徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学

平成20年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する改善状況について

平成21年10月現在

事項	反映案	実施状況(◎:実施済み、○:一部実施、×:未実施)	
本事業の強みや期待など	これらの強みや期待を踏まえつつ、計画的に事業を進め、全国規模に展開できる実績があがれば、積極的な提供を行う。	○	FD・SDとも計画的に事業が進んでおり、各学会や研究会でも成果の報告を行っている。また、今後はSPOD-HPでの情報提供も積極的に行う予定である。
活動に対する総括の必要性	総会において、事業責任者からの活動報告とともに、総括を行う。	◎	平成21年9月11日に開催した「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会において、事業責任者である愛媛大学佐藤准教授から活動報告とともに、総括を行った。
	次年度報告書においては、各活動毎に総括文を掲載する。	×	平成21年度の活動報告書では、各活動毎の総括文を掲載する予定である。
	SPODとしてのFD及びSDの定義付け、用語整理等を行う。	◎	SPODにおけるFDの定義及びSDの定義付けを行った。今後SPOD-HPへ公表する予定である。
遠隔システム等情報ツールの活用と 情報提供の充実による交流拡大	遠隔システムで配信される各種プログラムをガイドブックに明示する。	◎	研修プログラムガイド2009(平成21年5月発行)において、遠隔システムに対応しているプログラムの明示を行った。
	SPOD-HP利用促進のためのPRを行う。	◎	第2回ネットワークコア運営協議会及び各県内会議にて、各加盟校HPからSPOD-HPへのリンクを貼ってもらうこと、担当者のメール署名や名刺へSPOD-HPアドレスを記載することを依頼し、行っていた。また、SPDOフォーラムの申込みをSPOD-HPから行う仕組みにした。なお、このことについては、SPODフォーラムのチラシにも掲載した。
	メーリングリストによる高等教育政策及びFD/SD情報を提供する。	◎	FD担当者、SD担当者、事務連絡担当者にSPODメールマガジンを配信し、高等教育政策及びFD/SD情報の提供を行っている。
	SPODフォーラムにおける規模別、設置者別昼食会を実施する。	◎	SPODフォーラムにおいて、テーマ別昼食会を開催した。「小規模校のFD活動をどう進めていくか？」等のテーマを設けて小規模校のニーズにも対応できるようにした。
学校種別、規模別での加盟校ニーズ整理	昨年度行ったニーズ調査を踏まえつつ、さらに詳細な調査を行う。	○	個別に大学等に訪問し、SPOD事業に対する意見や要望を伺っている。また、SPOD-SDプログラムの開発にあたって、参加者(大規模校～小規模校まで様々)のニーズを反映している。
	SPODプログラム開催毎にアンケートを実施する(標準的アンケート項目を作成)。	◎	SPODプログラムの標準的なアンケート項目を第3回ネットワークコア運営協議会で決定し、各プログラム毎にアンケートを実施している。
FDとSDの連携	SPODフォーラムの各プログラムでは、参加対象者に制限を設けない。	◎	SPODフォーラムでは、FD/SDプログラムとも教員、職員の制限を設けず募集を行った。
	県内加盟校会議等をFD/SD合同で実施する。	○	FD/SD合同の県内加盟校会議を行っている。
ティーチングポートフォリオとスタッフポートフォリオ	ティーチングポートフォリオ、スタッフポートフォリオに関する取組みを促進するとともに、それを効果的に活かせる仕組みづくりについても併せて研究を行う。	◎	ティーチング・ポートフォリオ及びスタッフ・ポートフォリオともSPODフォーラムのプログラムとして実施された。また、ティーチング・ポートフォリオについては愛媛大学において作成のためのワークショップを開催した。スタッフ・ポートフォリオについても試行的に愛媛大学において導入することとなっている。

今後のスケジュールと検討課題について

1. ネットワークコア運営協議会の開催

(1 1月開催予定) 議題案

- ・ SPODフォーラム日程等の検討
日程（期間）、場所、プログラム数等、総会・分科会の同時開催の有無
- ・ 研修プログラムガイド2010の作成要領の検討
- ・ 詳細なニーズ調査の方法の検討

(1 2月開催予定) 議題案

- ・ 平成22年度予算要求案の検討
- ・ 平成22年度活動実施計画の検討
海外、国内実地調査の有無等検討
- ・ PODカンファレンス報告

(2月開催予定) 議題案

- ・ 平成21年度の各活動の総括
- ・ SPOD事業3年間（平成20～22年）終了時の総括方法の検討
- ・ 遠隔会議実施の検討
- ・ ニーズ調査報告
- ・ SEDAカンファレンス参加報告

(3月開催予定) 議題案 ※遠隔システム利用を予定

- ・ 事業評価委員会の意見の反映案の検討

2. 研修プログラムガイド2010の作成

(1 1月) コア協議会にて作成要領の検討

コア協議会終了後、全加盟校へ掲載を呼びかける。

→全加盟校は、SPODに開放できるプログラム及び遠隔配信できるプログラムの検討。掲載原稿の作成。

(3月) 掲載原稿締切（提出期限は11月のコア協議会で検討）

(4月) 印刷、完成。全加盟校へ送付

3. 事業評価委員会の開催

(2月) コア協議会にて活動毎の総括を行う。

事業評価委員用の資料を作成

(3月) 事業評価委員会開催

事業評価委員会の意見の反映案の検討

4. 平成21年度活動報告書の作成

(2月) 各取組の実施状況他、報告書原稿の締切。原稿完成、印刷

5. 遠隔システム配信

(11月) 遠隔講義システムの送信、受信用マニュアル作成
(12～1月) 遠隔会議のためのテスト
(2月) コア協議会にて遠隔会議実施の検討
(3月) 遠隔会議の実施

6. FD事業

(10月28日～11月1日) PODカンファレンス参加
(11月7日、8日) 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ開催
(11月17日～18日) SEDAカンファレンス参加
(～3月) ティーチング・ポートフォリオの開発

7. SD事業

(～11月) SPOD-SDプログラム開発
(12月、1月) 成果報告会の実施
(～3月) スタッフ・ポートフォリオの開発
(～3月) 関連学会等との意見交換と調整

8. 平成21年度補助金実績報告書提出（補助金連携校のみ対象）

(11月末) 補助金連携校が愛媛大学に10月末現在の中間報告、執行見込みの提出
(3月上旬) 補助金連携校が愛媛大学に2月末現在の支出簿、対比表、備品調書の提出
(3月下旬) 補助金連携校が愛媛大学に支出簿、対比表、備品調書の最終版提出
(4月) 愛媛大学から文部科学省に実績報告書提出

9. 平成22年度補助金調書提出（補助金連携校のみ対象）

(12月) 平成21年度使用実績による平成22年度予算要求案の検討（21年度の使用実績も加味）
(1月) 愛媛大学にて補助金調書作成（案）の作成、加盟校へ送付、検討。
(2月) 文部科学省へ補助金調書を提出

F Dファシリテーター（F Der）養成研修（S P O D東四国：徳島，香川） （合宿ワークショップ研修）実施要項

1 主旨・目的

平成21年度徳島大学全学F D実施計画に基づいて実施するF Dファシリテーター（F Der）養成研修を，S P O D東四国の加盟校（徳島，香川）に開放し，本事業の取り組みである，F Der（ファカルティ・ディベロッパー）養成のための研修を実施します。

このプログラムの目標は次のとおりです。

- ・ F D活動の理念と活動計画を理解し，F Dプログラムを開発する。
- ・ F Dリーダーとして活動できる能力と資質を体得する。
- ・ F Dリーダー間の仲間づくり，F Dネットワークづくりをする。

2 実施日 平成21年6月27日（土）～28日（日） （1泊2日）

3 実施場所 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立淡路青少年交流の家 （兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 TEL 0799-55-2696）

4 日程 別紙「日程表」のとおり

5 交通機関 往復借上バス

6 出発日時 平成21年6月27日（土）8時40分（8時30分集合） 及び場所 徳島大学工学部電気電子工学科棟横

7 対象者・対象校

徳島大学の各部局のF D担当者及びS P O Dの東四国（香川県と徳島県）の大学・短大・高専

8 その他 自己負担3,000円（食事4回分，シーツ代等）

※宿泊費：施設使用料は無料です。

※徳島大学までの往復交通費も各大学でご負担願います。

9 主催 徳島大学 大学教育委員会・F D専門委員会 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

2009 年度 F D ファシリテーター (F Der) 養成研修日程

第 1 日 (2009 年 6 月 27 日・土曜日)

9:30 国立淡路青少年交流の家到着

時 刻	内 容	講師・担当者	場 所
9:30-10:00	・記念写真撮影、部屋の確認、会場設営	研修事務局	特別第 1 研修室
10:00-10:30	(1) オリエンテーション ・FD への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長 (教育担当) 川上 博 大学開放実践センター長 曾田紘二 (進行) 川野卓二	特別第 1 研修室
10:30-11:00	(2) アイスブレイク	宮田政徳 香川順子	特別第 1 研修室
11:00-11:50	(3) FD 企画の立案と実施 I 「各部局、各校のニーズの把握」(部局 FD 計画と Teaching Life 集計結果より)	佐藤浩章 (愛媛大学)	特別第 1 研修室
11:50-13:00	昼食 (11:50~12:20) 休憩		食 堂
13:00-14:45	(4) FD 企画の立案と実施 II 「方略の選択、方略の手順」 中間期の振り返り演習	佐藤浩章	特別第 1 研修室
14:45-17:30	(5) FD 企画の立案と実施 III 「情報収集の仕方と実践」 (6) FD 企画の立案と実施 IV 「企画書・プログラムの作成」 (適宜コーヒープレークをとる)	佐藤浩章	特別第 1 研修室
17:30-18:30	夕食 (17:30~18:00) 休憩		食 堂
18:30-19:30	自由時間		
19:30-20:30	交流会	宮田政徳	食 堂
20:30-22:00	風呂他 (入浴時間 20:30~21:30)		浴 室

22:00 消灯

第2日（2009年6月28日・日曜日）

時 刻	内 容	講師・担当者	場 所
7:00-7:20	朝のつどい		つどいの広場
7:20-8:30	朝食（7:45～8:10） 掃除（8:25点検・退室）		食堂・宿泊室
9:00-10:00	(7) FD 企画の立案と実施Ⅴ「評価の仕方」	佐藤浩章	特別第1研修室
10:00-11:50	(8) FD プログラム作成の仕上げ	佐藤浩章	特別第1研修室
11:50-12:50	昼食(11:50～12:20) 休憩		食 堂
12:50-15:10	(9) FD プログラム発表・質疑（1校10分程度） （徳島大 5 学部+1 センター、徳島県下大学 （T-SPOD）、香川県下大学）	佐藤浩章 葛城浩一（香川大学） 川野卓二	特別第1研修室
15:10-15:30	(10) プログラムのまとめ ・講評 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長（教育担当） 川上 博 大学開放実践センター長 曾田紘二 （進行）宮田政徳	特別第1研修室

15:40 バス発車 - 16:40 常三島キャンパス着

【参加者と活動内容】

- ・徳島大学の学部等からの参加者は学部等 FD 委員 2 名とする。
- ・徳島県下（T-SPOD）、香川県下（SPOD）の大学等からの参加者は各校原則 2 名とする。
- ・各部局・各校参加者 2 名でグループを組む。
- ・徳島大学からの参加者は「部局 FD 年度計画」と「Teaching Life」集計結果に基づいて、徳島県下（T-SPOD）と香川県下の大学等からの参加者は自校のニーズを考えて、グループ毎に FD プログラムを作成・発表し、参加者全員で検討する。

※徳島大学の「部局 FD 年度計画」は HP「FD がつなぐ徳島大学教育ネットワーク」に掲載されている。

○青少年交流の家使用可能講義室等（2 日間）

特別第1研修室（特1）、第6研修室（6研）、スタッフルーム

平成 21 年度 ファカルティ・ディベロッパー養成講座 実施要項

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室

URL <http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)』事業の一環である。

2. 実施日

平成 21 年 10 月 10 日(土)～11 日(日) 2 日間

3. 会 場

愛媛大学 愛大ミューズ 1 階 学生活動スペース 2
〒790-8577 松山市文京町 3 番

4. 参加対象者

SPOD の西四国(愛媛県と高知県)の大学・短大・高専のFD担当者

5. 実行委員

弓削 俊洋 (実行委員長、教育・学生支援機構長)

小林 直人(教育企画室長)

秦 敬治 (教育企画室副室長)

野本 ひさ(教育企画室研究員)

城間 祥子 (教育企画室助教)

松本 章雄(リーダー養成・能力開発室長)

大竹 奈津子(教育企画室特定研究員)

久保 研二(教育企画室特定研究員)

6. 目的

FDを担当することになった教職員(FDe r)が職場で効果的なFDプログラムを実施するために必要な知識と技術を身につける。

7. 目標

- ① FDe rが最低限知っておくべき知識を説明することができる。
- ② FDプログラムのニーズを把握することができる。
- ③ FDプログラムを作成することができる。
- ④ 研修当日にFDe rがすべきことを説明することができる。
- ⑤ 研修の評価方法を述べることができる。

8. 研修形態

- ① プログラムは、講師による講義と個人・グループワークで進めます。
- ② 個人・グループワークによって、各大学学部等のFD実施要項またはFDプログラムの体系化マップのいずれかを実際に作成していただきます。

9. そのほか

- ① 記録用にカメラ・ビデオで撮影することがございますので、ご了承ください。
- ② 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- ③ 食事代等(交流会費、弁当代)については、当日会場にて一括で徴収させていただきます。なお、その詳細については、おってご連絡いたします。
- ④ 事前アンケートに、ご協力ください。
- ⑤ パソコンを持ってきてください。

10. 本件に関する問い合わせ先

教育・学生支援機構 教育企画室 久保 研二
 外線番号 (089)927-8900 内線番号 8900
 kuboken@iec.ehime-u.ac.jp

11. 日程表

2009 年度 F Der 養成講座研修日程

第1日 (2009 年 10 月 10 日・土曜日)

時 刻	内 容	講師・担当者	場 所
13:00-13:30	(1) オープニング ・開会の挨拶 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	小林 直人	学生活動 スペース 2
13:30-15:45	(2) ミニレクチャーと個人・グループワーク I 「FD 概論」 「プログラムの立案」	小林 直人	学生活動 スペース 2
15:45-16:00	休憩		
16:00-18:30	(3) ミニレクチャーと個人・グループワーク II 「プログラム作成と研修技法の選択・手順」	野本 ひさ	学生活動 スペース 2
18:30-18:45	集合写真撮影	スタッフ	学生活動 スペース 2
19:00-20:30	交流会		生協食堂

第2日 (2009 年 10 月 11 日・日曜日)

時 刻	内 容	講師・担当者	場 所
9:00-10:00	(4) ミニレクチャーと個人・グループワーク III 「研修の評価」	秦 敬治	学生活動 スペース 2
10:00-11:50	(5) 個人・グループワーク IV FD プログラムの仕上げ	小林 直人	学生活動 スペース 2
11:50-12:50	昼食 休憩		
12:50-14:40	(6) FD プログラムの発表・ブラッシュアップ	小林 直人	学生活動 スペース 2
14:40-15:00	(7) クロージング ・振り返り ・アンケート記入 ・閉会の挨拶	小林 直人	学生活動 スペース 2

The POD conference registration desk will be open in the Ballroom Foyer at these times:

- Tuesday, 5:00 p.m. to 8:00 p.m.
- Wednesday, 7:30 a.m. to 6:00 p.m.
- Thursday, 7:00 a.m. to 6:00 p.m.
- Friday, 7:00 a.m. to 6:00 p.m.
- Saturday, 7:30 a.m. to 12 noon

Wednesday, October 28

9:00 am	9:00-5:00 POD Core Meeting	
1:00 pm		1:00-4:30 Pre-conference workshop W1 (Part 1)

Thursday, October 29

Thursday, October 29			
8:00 am		8:00–12:00 POD Core Committee meeting	8:00–5:00 Vendor Exhibit
8:30 am	8:30–12:00 Pre-conference workshops		
1:30 pm	1:30–2:45 Interactive Sessions	11:00–5:00 Expedition #1: Space Center Houston/NASA Expedition #2: Brazos bend/George Ranch	
3:00 pm	3:00–4:15 Interactive Sessions		
5:00 pm	5:00–5:30 Intro. to POD for first timers		
5:30 pm	5:30–6:30 Diversity Committee Reception (cash bar)		
6:30 pm	6:30–8:30 Conference Dinner: Welcome and President’s Address		

Friday, October 30

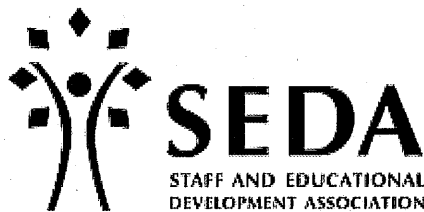
7:30 am	7:30-8:45 POD Topical Interest Groups (TIGs)	7:30-12:00 Vendor Exhibit
9:00 am	9:00-10:15 Interactive Sessions	
10:15 am	Beverage Break	
10:30 am	10:30-11:45 Interactive Sessions	
12:00 pm	12:00-1:30 Luncheon Plenary Session One – Mary Huber	

1:30 pm			1:30-4:30	1:30-5:00
2:00 pm	2:00-3:15		Expedition #3: Menil Collection	Vendor Exhibit
3:00	Interactive Sessions	3:00-5:00		
3:15 pm	Beverage Break	Poster Sessions		
3:30 pm	3:30-4:45			
	Interactive/Roundtable Sessions			
6:00	Dinner on your own	6:00-9:00 Expedition #4: Elder POD: Dinner 6:00 – 11:00 Expedition #5: Mary Poppins (Dinner on your own followed by the show at 8:00)		

Saturday, October 31				
7:00 am	7:00–8:30		7:30–10:30	
	Graduate & Professional Student Developers Breakfast		Vendor Exhibit	
9:00 am	9:00–10:15			
	Interactive Sessions			
10:15 am	Beverage Break			
10:30 am	10:30–11:45			
	Plenary Session Two – Neil Howe			
12:00 pm	12:00–2:00	Committee & Regional Meetings		12:00–5:30
	Lunch on your own			Vendor Exhibit
12:30 pm		12:30–5:30		
		Expedition #6: Museum Tour		
2:00 pm	2:00–3:15			
	Interactive Sessions			
3:15 pm	Beverage Break			
3:30	3:30–4:45	3:30–4:45		
	Roundtable/Interactive Sessions	Job Fair		
5:00	5:00–6:30			
	Resource Fair (cash bar)			
6:30	6:30–8:30			
	Awards Banquet			
8:30	Live Entertainment with <u>The Stringbenders</u> , a 5-piece band playing the best of classic country/Cajun/Zydeco/TexMex styles including a bit of rock-n-roll to provide everyone with a great evening of entertainment.			

<i>Sunday, November 1</i>	
7:00 am	7:00-8:15

	Rooms available for committee and informal meetings by request
8:30 am	8:30–10:00 POD Sponsored Anchor Sessions: <i>Re-gen to Next-gen: Going Forward Together & Sustaining Championing Faculty Development – In Good Times or Bad.</i>
10:00 am	POD Conference Ends
10:30 pm	10:30–3:30 IDEA Users Group (Separate Registration Required)



Search...

Supporting and Leading Educational Ch

[Home](#) [About SEDA](#) [Join SEDA](#) [Professional Development](#) [Events](#) [Publications](#) [Research](#) [Useful Links](#) [Contact U](#)
[Home](#) >> [Events](#) >> [Forthcoming Residential Conferences](#) >> [14th Annual SEDA Conference 2009](#)

14th Annual SEDA Conference 2009

- » [Event Home](#)
- » [Call for contributions](#)
- » [Pricing Information](#)
- » [Conference Programme](#)
- » [Book event](#)

14th Annual SEDA Conference 2009

Changing Educational Development: New Ideas, New Approaches, New Contexts

17 November 2009 - 18 November 2009

Location: Birmingham

Registration now open

Conference Programme

Day One: Tuesday 17th November

Time	Session
09.15 – 09.45	Registration and tea & coffee
09.45 – 10.00	Welcome and Introductions
10.00 – 10.45	Keynote address - <i>Learning for Life: from pedagogy to partnership</i> Professor Patricia Broadfoot, Vice-Chancellor, University of Gloucestershire
10.45 – 11.15	Break
11.15 – 12.00	Parallel Session 1 <u>Career Profiles of Educational Developers: looking back while looking forward</u> Stuart Boon, Bob Mathews and Louisa Sheward <u>From Peer Observation to Peer Learning – a case study</u> Will Bowen-Jones and Lerverne Barber <u>Integrating Staff Development to Support Pedagogic Practice in eLearning: using an interdisciplinary team approach</u> Linda Byles <u>Using an Old Technology in a New Way or Using a New Technology in an Old Way? Exploring the use of audio feedback post-teaching observation</u> Carole Davis and Agi Ryder <u>SEDA's New Fellowship Pathway: professional development for academic developers using out Professional Development Framework</u> Stephen Bostock and Ruth Pilkington
12.00 – 12.45	Networking and SEDA dissemination
12.45 – 13.45	Lunch
13.45 – 15.15	Parallel Session 2 <u>Déjà Interview: designing innovative activities to help find the right colleague</u> Fiona Campbell and Elaine Mowat <u>Extending Learning: constructing community through space design</u> Deborah Harrop and Liz Aspden <u>Assessment Feedback for Feeding Forward: sharing good practice</u>

	<u>across disciplines</u> Jaki Lilly and Berenice Rivera Macias 9. <u>Academic Development 'at the edge of chaos' – what does it look, feel and sound like?</u> Ranald Macdonald 10. <u>A Principled Ideal or a Flawed Reality? Unpacking our conceptions of UKPSF standard descriptor three</u> Liz Shrives and <u>No One Knows About My Award: how can I share this?</u> Pam Parker, Susannah Quinsee and Michael Detyna
15.15 – 15.30	Break
15.30 – 16.15	Parallel Session 3 11. <u>Engaging Senior Managers as Project Sponsors for Educational Development Projects</u> Pat Atkins, Carole Baume and Penny Bennett 12. <u>People, Pedagogy and Place: the student (and staff) experience of a Learning Hub</u> Emma Heron 13. <u>Coaching-led Approaches to PDP and Employability Development</u> Tracy Johnson 14. <u>On-line Collaborative Support Offered to Associate Lecturers Involved in a Programme of Action Research/Action Learning and the Ethical Implications Raised</u> Jenny Lynden and Iman Hassan 15. <u>A Journey to an Innovative User-centred Learning Technologies Provision - from VLE to Cloud Computing</u> Uwe Matthias Richter
16.30 – 17.15	Parallel Session 4 16. <u>Technology and Its Role in Supporting Student Communities of Practice</u> Joanne Smailes and Pat Gannon Leary 17. <u>Pedagogy and Practice: embedding ways of learning and teaching into physical learning spaces – what's actually happening!</u> Hilaire Graham 18. <u>Online Support for CPD in Learning and Teaching: reaching a wider audience</u> Mary McCulloch 19. <u>Habitus, Power, Epistemology and the UK Professional Standards – can critical pedagogy help us understand the challenges of current educational development practice?</u> Julie Hall 20. <u>Cultivating the seeds of innovation. How best to engage and support staff in innovating in a scholarly, sustainable, and transferable way</u> Patricia Fell, Rachel Moule, Stuart Brand and Marilyn Hammick
19.00	DRINKS RECEPTION
20.30	DINNER

Day Two: Wednesday 18th November

Time	Session
08.30 – 09.15	Breakfast session for people new to SEDA – come and find out more about our organisation
09.30 – 10.30	Welcome Day 2 Keynote – <i>Infinity and Beyond: the adventure of learning</i> Dr Colin Beard, Faculty Teaching Fellow, Sheffield Business School at Sheffield Hallam University
10.30 – 11.00	Break

11.00 – 11.45	Parallel Session 5 21. <u>Engaging, Nurturing and Developing Supervisor Communities</u> Gina Wisker 22. <u>Greening Our Lecturers: support from my sustainability network</u> Vivian Neal 23. <u>The Influence of Interactions With Students for the Development of N Academics as Teachers in Higher Education</u> Ian Sadler 24. <u>Environmental Change: evaluating the impact of alternative teaching learning spaces for staff and students</u> Anna Richardson 25. <u>Learning From Experience: using an e-portfolio to support learning in professional course for new HE lecturers</u> Caroline Marcangelo and Sarah Chesney
11.45 – 12.45	Reading Group/Networking
12.45 – 13.45	Lunch
13.45 – 14.30	Parallel Session 6 26. <u>Threshold Concepts and Disciplinary Thinking: a useful tool for every context?</u> Jan Smith 27. <u>Academic and Social Integration in Higher Education</u> Kim Russell 28. <u>Enhancing the Experience of Merger in Academic Workgroups: a sociocultural approach</u> Susan Mathieson 29. <u>Building a Continuing Relationship With PGCLTHE Alumni</u> Rachel Hudson 30. <u>Approaches to Supporting Curriculum Development</u> David Baume
14.30 – 15.30	Keynote – <i>The Importance of the Learner Voice in 21st Century Higher Education</i> Aaron Porter, Vice-President (Higher Education) National Union of Student
15.30 – 15.45	Summing up and close
15.45 – 16.00	Tea and Depart

[Go back to the main event page](#)

SPODにおけるSDの定義について

1. 中央教育審議会によるSDの定義

我が国の高等教育におけるスタッフ・ディベロップメント（SD）の必要性については、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月28日）（以下「将来像答申」という。）の「保証されるべき高等教育の質」の中で、「高等教育の質の保証を考える上では、教員個々人の教育・研究能力の向上や事務職員・技術職員等を含めた管理運営や教育・研究支援の充実を図ることも極めて重要である。評価とファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・ディベロップメント（SD）等の自主的な取組との連携方策等も今後の重要な課題である。」と提言され、その用語解説で、SDとは「事務職員や技術職員など教職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す」とされていた。

その後、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日）（以下「学士課程答申」という。）の第3章「2 大学職員の能力開発」において、「大学経営をめぐる課題が高度化・複雑化する中、職員の職能開発（スタッフ・ディベロップメント）はますます重要となってきた。」と提言され、その用語解説では、SDについて、将来像答申中にあった「教職員全員」から「事務職員や技術職員など職員」に限定され、後段に「FDと区別し、職員の職能開発の活動に限定してSDの語を用いている」が加筆された。

（「学士課程教育の構築に向けて」（答申）の用語解説）

【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「スタッフ」に教員を含み、FDを包含する意味としてSDを用いる場合（イギリスの例）もあるが、ここでは、FDと区別し、職員の職能開発の活動に限定してSDの語を用いている。

ここにおいて、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組であるファカルティ・ディベロップメント（FD）に対し、事務職員や技術職員などの職員（以下「職員」という）を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組をスタッフ・ディベロップメント（SD）として明確に区分されることとなった。

2. SPODにおけるSDの定義の必要性

上記に述べた高等教育施策の答申を受け、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education。以下「SPOD」という。）の申請時におけるSDの定義は、学士課程答申の用語解説を用いた。これは、SDの取組は従来から人事政策の一つとして、研修という形で各大学、短期大学、高等専門学校（以下「大学等」という。）において職員養成のため実施されていたことによる。

しかし、SPODにおけるSDプログラムの開発を進めるに当たり、SPOD加盟校から、SDへの取組意義及びそのプログラム開発の目的について、学士課程答申の定義は広義的であり、社会的に高等教育機関の質の保証が求められている中、具体的な職能開発の定義を明確にする必要があるとの意見があった。また、SPODにおけるSDの取組の意義の一つは、四国という地域の特性を活かし、四国内の規模の異なる大学等の職員が協働して共通的な職員養成プログラムを確立することである。

このようなことから、各大学等が共通認識を持って職員養成プログラムを開発するために、あらためて、SPODにおけるSDの具体的な定義付けを行うこととする。

3. SPOD における SD の定義

(1) SPOD-SD の定義

SPOD-SDとは、地域の「知の拠点」である四国内の大学等の職員が組織的に共同開発した職員養成プログラムにより、『大学、短期大学、高等専門学校ジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する』取組を指す。このSPOD-SDにおける職員養成プログラムをSPOD-SDプログラムという。

学士課程答申では、大学職員の職能開発について現状と課題を整理し、改善に向けた方策を示している。SPOD-SDにおいては、この現状と課題を踏まえ、大学等の職員として一般的に求められる大学人・社会人基礎力及び大学等における複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、企画、教務、研究、社会連携、生涯学習など）を持ち、大学等における問題に関する知識・理解などを備えたジェネラリストの育成に加え、教育方法の改革の実践を支える人材、経営を支援する人材、国際交流を支援する人材及び地域連携を支援する人材など、特定の分野において、より高度な専門性を備えたスペシャリストの育成を目指している。

また、SPOD-SDでは、大学等の職員に必要な資質とは、ジェネラリスト的な要素とスペシャリスト的な要素を統合したハイブリッドな要素を備えることであり、これが、高等教育のプロフェッショナルの養成につながると考えている。このため、SPOD-SDの定義を「大学等のジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する」ととした。

(2) SPOD-SD プログラムの開発

高等教育機関の職員は、大学人として社会人基礎力を持ち、高等教育を取り巻く環境や職員の果たすべき役割を的確に把握し、企画立案等に積極的に参画できる資質が求められている。このためSPOD-SDプログラムでは、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を可視化し、職場外研修（OFF-JT）及び職場内研修（OJT）を「意図的・計画的・持続的」に実施することにより、職員の能力開発の実質化を図る。

なお、SPOD-SDプログラム等の開発・実施は、全加盟校による協働を目指している。各県のコア校が中心となり、1) 職員がSDプログラム開発手法を学び、2) その上で、具体的なSDプログラムを開発し、3) 開発されたSDプログラムを実施し、4) 実施したSDプログラムの評価・改善を行う。

(3) SPOD-SD プログラムの構成

SPOD-SDプログラムは次の3つの柱で構成する。

1) SPOD-SD 大学（OFF-JT）

SPODにおける職員養成プログラムは、その養成プログラム全体を大学における課程の履修と想定する。そのカリキュラムは共通教育、専門教育及び大学院における履修方式をとることとし、その課程認定については、認定必要単位を設定する。

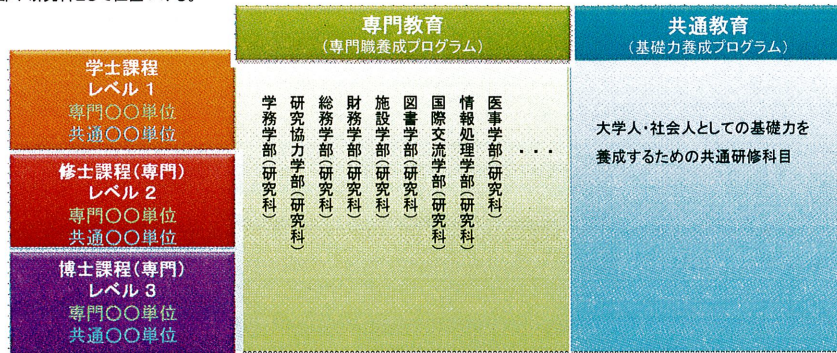
具体的には、SPOD-SD大学としてSDプログラムの単位認定制度を下の図のように構想している。専門職養成課程として共通教育と専門教育の各プログラムを構築し、リーダー養成課程として次世代リーダー養成プログラム及び管理者・経営者養成プログラムを構築する。

さらに、SPOD-SDプログラムにより知識・能力を身につけた職員自らが、次のSPOD-SDプログラムの講師となり、次世代の職員を育成していくというPDCAサイクルを確立する。

SPOD-SD大学(SDプログラム)構想図

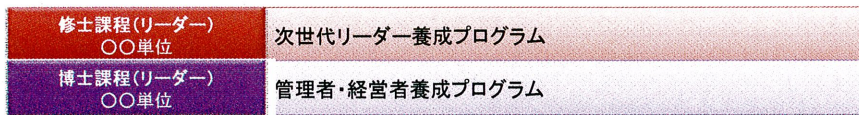
1. 専門職養成課程

大学等職員の専門性を育成するSDプログラムを学士、修士、博士課程として位置づける。そのため、各専門領域を学部や研究科として位置づける。



2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー、トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成するSDプログラムを修士、博士課程として位置づける。なお、修士課程(リーダー)を受講する際は、修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。さらに、博士課程(リーダー)を受講する際には、博士課程(専門)を受講中または修了していることを原則とする。



2) スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)の作成(〇JT)

職員個々人のキャリア形成に向けて、スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)を作成する。これにより、大学等職員としての自己認識と方向性を明確にさせる。スタッフ・ポートフォリオの導入に当たっては、職員のキャリア・アップの参考となるものとする。

3) 職員キャリア・アップ・サポート制度(〇JT)

キャリア・アップ・サポートとして、スタッフ・ポートフォリオに掲げる職員としてのビジョン及びゴールの目標設定や目標達成に向けて、上司が部下に対して相談、助言等を行うメンター制度を導入する。これにより、大学等の組織と職員個人の方向性を近づけることが可能となる。さらに、キャリア・アップを目指す職員が他大学への人事交流を希望する場合等のSPOD加盟校間における連絡・調整など、人事交流を円滑に推進するなどのサポートも実施する。

SPOD-SD プログラムは、国内の大学等における本格的な職員養成プログラムとなることを目指している。このため、四国内における大学等の協働だけでなく、国内の各関係機関や学会等とも連携し、教員と職員が協働して開発することが肝要である。

愛媛大学における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業に係る研修生受入要項

〔平成21年10月14日〕
規則第125号

(趣旨)

第1 この要項は、「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education) (以下「SPOD」という。) 事業を推進するため、大学教育改革等に係る専門知識及び技術・技能を修得させることを目的として、愛媛大学(以下「本学」という。) に研修生を受け入れる場合の取扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(受入対象等)

第2 研修生として受入れすることができる者は、大学、短期大学、高等専門学校(以下「大学等」という。) の学生、教職員等とする。

2 研修生の受入期間は、原則として1年以内とする。ただし、学長が必要があると認めた場合は、受入期間を更新することができる。

(受入手続等)

第3 研修生の受入れにあたっては、当該研修生を受け入れる教員(以下「受入責任者」という。) がSPOD事業に係る研修生の受入承認申請書(別紙様式1)により、所属する大学等の長の推薦を得た上で、本学学長に申請し、承認を得るものとする。

2 別紙様式1に記載する研修プログラムは、SPODが行う次の事業に関する内容のうちから構成するものとする。

(1) FD、SD及びTAD事業

(2) その他、大学教育改革等に係る専門知識及び技術・技能の修得に必要な事業

3 研修生が所定の要件を満たして研修プログラムを修了した場合は、修了証書(別紙様式2)を授与する。

(受入事項の変更等)

第4 研修生は、受入期間の更新、受入事項の変更又は研修の中止(以下「受入事項の変更等」という。) をするときは、SPOD事業に係る研修生の受入事項変更承認申請書(別紙様式3)により、受入責任者の確認及び所属する大学等の長の了承を得た上で、本学学長に申請し、承認を得るものとする。

2 研修生は、前項の承認を得たときは、所属する大学等の長に受入事項の変更等を届け出るものとする。

(受入条件等)

第5 研修生の待遇、受入条件は、次のとおりとする。

(1) 研修料は、徴収しない。

(2) 給与、手当等は支給しない。

(3) 研修プログラム実施に伴う経費については、本学が負担するものを除き自己負担とする。

(4) 研修生が受入期間中に業務上の災害若しくは通勤による災害にあった場合、又は故意若しくは重大な過失により、本学若しくは第三者に損害を与えた場合、その責任は当該研修生が負うものとする。

(5) 研修生は、研修を開始する前に次の手続きを行わなければならない。

ア 大学等の学生

学生教育研究災害傷害保険及びインターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険に加入すること。

イ 大学等の教職員等

所属する大学等において、労災保険等の適用について確認の上、必要に応じ任意保険に加入すること。

(施設等の使用)

第6 研修生には、本学の教育、研究等に支障のない範囲で、研修に必要となる本学の施設、設備等を使用させることができる。

(研修生証の交付)

第7 研修生には、研修生証（別紙様式4）を交付するものとする。

(諸規則等の遵守)

第8 研修生は、本学の諸規則等を遵守しなければならない。

(事務)

第9 研修生の受入れに関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、研修生の受入れに関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この要項は、平成21年10月14日から施行する。

別紙様式1（第3第1項関係）

SPOD事業に係る研修生の受入承認申請書

平成 年 月 日

愛媛大学長 殿

受入責任者

所属・職・氏名

印

下記のとおり，所属長からの推薦に基づき，研修生として受け入れたいので申請します。

記

(フリガナ) 氏 名			性別		生年月日	年 月 日
所属大学(機関) 名 職名 (学年)						
受 入 期 間		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日				
研 修 題 目						
研 修 プ ロ グ ラ ム						
上記のとおり推薦します。 平成 年 月 日 所属大学（機関）の長 印						

申請のとおり承認します。 平成 年 月 日 愛媛大学長 印	
---	--

別紙様式2（第3第3項関係）

修 了 証 書

○ ○ ○ ○ 大学

○ ○ ○ ○ 殿

あなたは四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）が実施する所定の研修プログラムを修了したことをここに証します

今後の大学教育改革を推進するうえで、この研修の成果が生かされることを期待します。

平成 年 月 日

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク代表校

愛 媛 大 学 長

○ ○ ○ ○

(修了証書裏面)

修了した研修プログラム内容等

受入期間		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
研修題目		
研修プログラムの内容		

別紙様式 3 (第 4 第 1 項関係)

S P O D 事業に係る研修生の受入事項変更承認申請書

平成 年 月 日

愛媛大学長 殿

研修生氏名

印

下記のとおり、所属長の下承を得ていますので、受入事項の変更等を申請します。

記

受入責任者 職・氏名		確認印
変更事項等		
上記の受入事項の変更等を了承します。 平成 年 月 日 所属大学（機関）の長 印		

申請のとおり承認します。 平成 年 月 日 愛媛大学長 印		
-------------------------------------	--	--

別紙様式4（第6関係）

愛媛大学 SPOD事業 研修生証

写 真

研修生

氏 名

受入責任者

氏 名

有効期限 平成 年 月 日

上記の者は、本学のSPOD事業に係る研修生であることを証明する。

平成 年 月 日

愛媛大学長

印

（名刺版とする。）

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ実施要項

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室
四国地区大学教職員能力ネットワーク(SPOD)

2. 期 間

平成21年11月7日(土)～8日(日)

※集合・出発時刻

国立大洲青少年交流の家集合時刻:9:30

愛媛大学から出発する場合 7:40 城北キャンパス正門前集合 8:00 時出発(マイクロバスで移動)

※解散時刻

13:30 国立大洲青少年交流の家解散

愛媛大学に戻る場合 15:00 城北キャンパス正門前解散

3. 場 所

国立大洲青少年交流の家

〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086, TEL:0893-24-5175 / FAX:0893-24-2909

4. 参加対象者

将来、初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生

5. 参加費

3,500 円(宿泊費, 食費, 懇親会費)

* 愛媛大学と国立大洲青少年交流の家の往復はマイクロバス(無料)を利用いたします。

参加費には、愛媛大学までの交通費は含んでおりませんので、ご注意ください。

6. 定員

30名

7. 実行委員

愛媛大学 教育学生支援機構 教育企画室教員・研究員

8. ワークショップの目的

授業など教える仕事をするにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てインストラクション・スキル、コミュニケーション・スキルを身につけます。

9. ワークショップの目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. 教えるための計画書を書けるようになる。
3. 様々な教育方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。

10. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる大学・研究科の大学院生が、意見交換をすることで、学習効果を高めます。

11. その他

1. 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
2. 宿泊しますので、洗面道具・タオル・寝間着・虫さされなどの常備薬等をご準備ください。
3. 宿泊料・食事代等の 3500 円については、当日会場にて一括で徴収させていただきます。
4. 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。

12. 本件に関する問い合わせ先

教育企画室 外線番号 (089)927-8900 内線番号 8900

担当者 久保 研二 kuboken@iec.ehime-u.ac.jp

13. プログラム日程

第Ⅰ部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

9:30 現地到着

（敬称略）

時刻	内容	講師・司会	場所
9:40—9:55	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い		視聴覚室
9:55—10:25	(2) アイスブレーキング ・自己紹介 ・グループワーク		視聴覚室
10:25—10:45	(3) グループワークⅠ 「良い教え方と悪い教え方」		視聴覚室
10:45—11:25	(4) 講義Ⅰ「目標設定と授業プランの作成」 ・目標設定と授業プランの立て方 ・授業プランの書き方		視聴覚室
11:25—12:15	(5) グループワークⅡ「授業開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業プランの作り方		視聴覚室
12:15—13:15	集合写真撮影・昼食・休憩		食堂
13:15—14:05	(6) 講義Ⅱ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業		視聴覚室
14:05—14:15	休 憩		
14:15—14:45	(7) 講義Ⅲ「よりよい評価の仕方」 ・評価の目的 ・評価の方法と評価対象 ・効果的なほめ方と叱り方		視聴覚室
14:45—15:45	(8) グループワークⅢ「授業開発Ⅱ」 ・授業プラン作成 ・授業プランの評価作成		視聴覚室
15:45—16:00	休 憩		
16:00—17:30	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」		視聴覚室

17:30-18:30	(10) グループワークⅣ「授業開発Ⅲ」 ・ 授業プラン作成		視聴覚室
-------------	-----------------------------------	--	------

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容	講師・司会	場所
18:30-19:30	夕食・散策・お風呂		食堂など
19:30-20:20	(11) 講義Ⅲ「効果的なプレゼンテーションの方法」 ・ 論理的に話すコツ ・ 魅せるプレゼンの方法		視聴覚室
20:20-21:00	(12) グループワークⅤ「授業開発Ⅳ」 ・ 授業プラン作成		視聴覚室
21:00-21:30	交流会		リフレッシュ ルーム
21:30-	自由時間・お風呂		

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

時刻	内容	講師・司会	場所
7:30-8:30	朝食・散策		食堂
8:30-9:30	(12) グループワークⅥ「授業開発Ⅴ」 ・ 役割決定 ・ 授業の練習		視聴覚室
9:30-11:30	(13) グループ発表Ⅱ「ミニ授業（導入の10分）」 ・ 授業紹介 3分 ・ ミニ授業 10分 ・ 他グループからのコメント 3分 ・ 討議・検討 12分		視聴覚室
11:30-12:30	(14) 閉会式 ・ グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉		視聴覚室
12:30-13:30	昼食		食堂

13:45 現地出発

第1回 大学院生向け能力開発プログラム

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ

日時

2009年 11/7(土)~8(日)

7日
8日8:00
15:00愛大出発
愛大到着・解散

場所

国立大洲青少年交流の家

参加定員

30名

今回のワークショップでは四国地区の全大学の大学院生に募集しておりますので、お申し込みは、お早めをお願いします。

主催

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

申込期限

2009年 10月30日(金)

30名限定のプログラムですので、先着順とさせていただきます。

参加費

3,500円

(宿泊費、食費、懇親会費)*現地にて徴収いたします。
※愛媛大学と国立大洲青少年交流の家の往復はマイクロバス(無料)を利用いたします。

詳細はWEBをご覧ください

▶ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

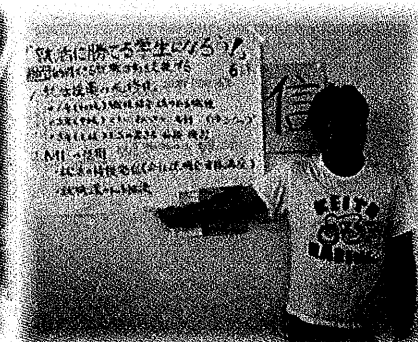
特徴①

授業の構想・設計・実施・評価方法等について学び、実際にミニ授業を通して教える仕事をするにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学ぶことができます。

特徴②

インタラクティブなワークショップ形式で行い、共同で意見を出し合いながら作り上げるため、コミュニケーション力が身につくのと同時に実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

特典

研修終了後にも、振り返りシートによりフォローアップします！
研修で使用する参考書「もっと!!授業を良くするために vol.1,2」
を無料プレゼント

申し込みにあたって

- 集合時間等の詳細については、申込みいただいたのちにご連絡させていただきます。
- また何かご不明な点、ご質問等ありましたら下記へご連絡ください。

お問い合わせ先

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室

担当：久保 研二

TEL: 089-927-8900

E-mail: kuboken@iec.ehime-u.ac.jp

遠隔講義システム受信校一覧

愛媛大学配信

日時	プログラム番号	プログラム名	徳島大学	香川大学	高知大学	高知工科大学	松山東雲女子大学	高知女子大学	香川短期大学	愛媛女子短期大学	松山東雲短期大学	高知学園短期大学	拠点数 (愛媛大含)
8月25日(火) 13:00～15:00	I-008	レポートの書き方の教え方	○	○	○	○	○		○		○		6
8月25日(火) 15:30～17:30	I-011	研究室運営方法のコツ～先輩が後輩を指導するシステムづくり～		○	○	○							3
8月28日(金) 15:30～17:30	I-005	グループ学習のコツ		○	○	○	○	○	○		○		7
9月 4日(金) 15:30～17:30	I-006	大人数講義法の基本		○	○	○	○		○	○	○	○	8
9月 8日(火) 13:00～15:00	0908B2	わかりやすいシラバスの書き方					○		○		○	○	5
9月 8日(火) 15:30～17:30	0908B3	様々な評価方法				○	○		○		○	○	6
9月 9日(水) 13:00～15:00	0909B2	「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム開発」現況報告			○								2
9月10日(木) 10:00～12:00	0910B1	授業公開と授業アンケートの効果的な活用方法							○				2
9月10日(木) 13:00～15:00	0910B2	ものづくりとアクティブラーニング		○									1
9月11日(金) 13:00～15:00	0911B2	授業の双方向性を高めるクリッカー入門				○						○	3
9月11日(金) 15:30～17:30	0911B3	講義のための話し方入門				○	○		○	○	○	○	7
9月18日(金) 15:30～17:30	I-010	聴覚障害学生に対応した授業方法			○	○							3

SPODフォーラムプログラム SPODガイドブック掲載の研修プログラム

今治明德短期大学配信

日時	プログラム番号	プログラム名	愛媛大学	高知女子大学	拠点数 (今短含)
8月11日(火) 10:00～12:00		「地域に根ざす短期大学のFD・SD活動のあり方」～宮崎学園短期大学の実践報告～	○	○	3

SPOD研修プログラムの遠隔講義システム配信に関するアンケート結果について

1. 配信映像について（カメラワーク、映像の乱れ等）

（受信校が少ないプログラム）

- ・特に問題なく配信されていた。

（受信校が多いプログラム）

- ・少し映像が乱れるところがあった。

（共通）

- ・映像の遅れ（5秒位）

2. 配信音声について（講師、質問者の声の音量、音声の乱れ等）

（講師に関すること）

- ・講師の声はよく聞こえた。
- ・講師が動いたときに声が聞こえにくくなる。

（質問者に関すること）

- ・質問者の声は聞きづらい。

2. その他（遠隔講義システム配信に関する全般）

（良かった点）

- ・所属大学で受講でき、時間的にも気分的な面でも受講しやすい。
- ・双方向の対応ができてよい。
- ・テレビを通じて実際に研修に参加することができ喜びを感じた。

（改善が必要な点）

- ・遠隔でのワークは少し難しい。（主催者の意図が伝わりにくい）

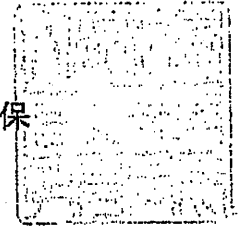
21文科高第38号
平成21年8月27日

各 国 公 私 立 大 学 長
大学を設置する各地方公共団体の長
各 公 立 大 学 法 人 の 理 事 長
大学を設置する各学校法人の理事長
大学を設置する各学校設置会社の代表取締役
放 送 大 学 学 園 理 事 長

殿

文部科学省高等教育局長
徳 永

保



(印影印刷)

学校教育法施行規則の一部を改正する省令 及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について（通知）

このたび、別添1のとおり、学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成21年文部科学省令第30号）が、また、別添2のとおり、教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（平成21年文部科学省告示第155号）が、それぞれ平成21年8月20日に公布され、平成21年9月1日から施行されることとなりました。

今回創設される教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく大学の取組を支援するものです。

既に教育課程の共同実施制度や学術研究分野における共同利用・共同研究拠点制度が施行されているところですが、各大学におかれては、下記に示す今回の新たな制度の詳細について十分ご了解いただき、同制度をご活用いただくようお願い致します。

なお、文部科学大臣への申請様式や対象施設、施設の種類等に応じた認定基準等、申請手続きにあたり必要な事項や今後の申請スケジュール等については、別途お知らせします。

記

- 第1 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成21年文部科学省令第30号）の概要

- (1) 大学における教育に係る施設は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができること。(第143条の2第1項関係)
- (2) (1)の施設を他の大学の利用に供する場合において、当該施設が大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点(以下「拠点」という。)として文部科学大臣の認定を受けることができること。(第143条の2第2項関係)

第2 教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程(平成21年文部科学省告示第155号)の概要

(1) 趣旨(第1条関係)

拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については、この規程の定めるところによること。

(2) 認定の基準(第2条関係)

拠点の認定の基準は次の①～⑧の要件に適合するものであること。

- ① 学生に対する教育、学生の修学等の支援、教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって、大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。(第1号)
- ② 拠点の認定を受けようとする施設(以下「申請施設」という。)が、他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずる学内規程等に記載されていること。新設の施設の場合にあつては、当該施設が設置された際に学内でどのような位置づけを有するのか明らかにすること。(第2号)
- ③ 開かれた運営体制を確保し、幅広い意見を拠点の運営等に反映させれるため、申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ、共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として、次に掲げる委員で組織する運営委員会を置いていること。また、その際、イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。なお、「申請施設の運営について権限を有する者」に具体的に該当する者については、各大学において実態に即して判断することとする。また、ロの委員については、学外者であることが望ましいこととする。(第3号)
 - イ 当該申請施設の職員
 - ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者
 - ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者
- ④ 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。なお、近隣の大学のみによる共同利用も許容されることとする。また、当該施設を利用する機関は大学のみ限定されるものではなく、各大学の判断で、大学以外に高等専門学校や専門学校等にも拠点の利用を認めることができるものであることとする。(第4号)
- ⑤ 申請施設の種類等に応じ、共同利用に必要な設備、要件及び資料、データベース等を備えていること。(第5号)
- ⑥ 申請施設を利用する大学に対し、申請施設の利用に関する技術的支援、必要

な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。(第6号)

- ⑦ より多くの大学の利用を図り、成果を広く発信するという観点から、申請施設の利用の方法及び条件、利用可能な設備及び資料等の状況、申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。(第7号)
- ⑧ 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。なお、望ましい具体的な利用大学数については、申請施設の種類等に応じて判断することとする。(第8号)

(3) 認定の申請(第3条関係)

申請施設を置く大学の学長は、申請書に次の①～⑨の書類を添えて、文部科学大臣に申請すること。

- ① 拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類(第1号)
- ② 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの(第2号)
- ③ 申請施設の名称、目的、所在地その他の概要を説明する書類(第3号)
- ④ 運営委員会の規則及び名簿(第4号)
- ⑤ 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類(第5号)
- ⑥ 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類(第6号)
- ⑦ 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類(第7号)
- ⑧ 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類(第8号)
- ⑨ その他第二条に規定する基準に適合することを説明する書類(第9号)

(4) 認定の手続(第4条関係)

文部科学大臣は、申請があった場合には、当該申請に係る認定をするかどうかを決定し、当該申請をした大学の学長に対し、速やかにその結果を通知するものとする。また、当該認定を行う場合において、その有効期間を定めるものとする。なお、有効期間については、各施設ごとに認定の際に判断することとする。

(5) 変更及び廃止等の届出(第5条関係)

拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長(以下「学長」という。)は、次に掲げる場合には、あらかじめ、その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。

- ① 当該施設の名称、目的又は所在地を変更しようとするとき。
- ② 当該施設を廃止しようとするとき。
- ③ 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。

(6) 文部科学大臣への報告等(第6条関係)

学長は、毎年度、当該年度における共同利用の実施計画を定め、当該年度の開始前に、文部科学大臣に提出するものとする。また、学長は、毎年度終了後3ヶ月以内に、当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ、文部科学大臣に提出するものとする。

(7) 認定の取消し(第7条関係)

文部科学大臣は、拠点が(2)に規定する基準に適合しなくなつたと認めると

き又は（５）②若しくは③の届出を大学から受けたときは、認定を取り消すことができること。

（８）認定等の公表（第８条関係）

文部科学大臣は、拠点の認定をし、又はこれを取り消したときは、インターネットの利用その他適切な方法により、その旨を公表するものとする。

（９）施行期日（附則関係）

教育関係共同利用拠点制度は、平成２１年９月１日から実施するものであること。

（本件担当）

【制度内容等について】

高等教育局大学振興課法規係 電話：03-5253-4111(2493)

【認定手続き等について】

高等教育局大学振興課学務係 電話：03-5253-4111(3334)

○文部科学省令第三十号

学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第四百四十二条の規定に基づき、学校教育法施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。

平成二十一年八月二十日

文部科学大臣 塩谷 立

学校教育法施行規則の一部を改正する省令

学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）の一部を次のように改正する。

目次中「・百四十三条」を「―百四十三条の三」に改める。

第四百四十三条の二を第四百四十三条の三とし、第四百四十三条の次に次の一条を加える。

第四百四十三条の二 大学における教育に係る施設は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができる。

2 前項の施設を他の大学の利用に供する場合において、当該施設が大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

附 則

この省令は、平成三十一年九月一日から施行する。

この省令の施行期日及び施行の順序は、別表のとおりとする。

この省令の施行期日及び施行の順序は、別表のとおりとする。

この省令の施行期日及び施行の順序は、別表のとおりとする。

この省令の施行期日及び施行の順序は、別表のとおりとする。

この省令の施行期日及び施行の順序は、別表のとおりとする。

この省令の施行期日及び施行の順序は、別表のとおりとする。

改 正 案	現 行
目次 第九章 大学 第一節 設備、編制、学部及び学科（<u>第百四十二条—百四十三条</u>の三） 第九章 大学 第一節 設備、編制、学部及び学科 <u>第百四十三条の二</u> 大学における教育に係る施設は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができる。 2 前項の施設を他の大学の利用に供する場合において、当該施設が大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。 <u>第百四十三条の三</u> 大学には、学校教育法第九十六条の規定により大学に附置される研究施設として、大学の教員その他の者で当該研究施設の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させるものを置くことができる。 2 前項の研究施設のうち学術研究の発展に特に資するものは、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。	目次 第九章 大学 第一節 設備、編制、学部及び学科（<u>第百四十二条・百四十三条</u>） （新設） <u>第百四十三条の二</u>（略） 2（略）

○文部科学省告示第百五十五号

学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）第四百四十三条の二第二項の規定に基づき、教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程を次のように定める。

平成二十一年八月二十日

文部科学大臣 塩谷 立

教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程

（趣旨）

第一条 学校教育法施行規則（以下「規則」という。）第四百四十三条の二第二項の規定に基づく教育関係共同利用拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については、この規程の定めるところによる。

（認定の基準）

第二条 規則第四百四十三条の二第二項に規定する教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。

一 学生に対する教育、学生の修学等の支援、教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であつて、大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。

二 拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が、他の大学の利用に供する

ものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。

三 申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ、共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として、次に掲げる委員で組織する委員会（この条及び次条において「運営委員会」という。）を置き、イの委員の数が運営委員会の委員の総数の二分の一以下であること。

イ 当該申請施設の職員

ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者

ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者

四 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。

五 申請施設の種類等に応じ、共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。

六 申請施設を利用する大学に対し、申請施設の利用に関する技術的支援、必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。

七 申請施設の利用の方法及び条件、利用可能な設備及び資料等の状況、申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。

八 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。

（認定の申請）

第三条 申請施設を置く大学の学長は、申請書に次に掲げる書類を添えて、文部科学大臣に申請する

ものとする。

一 拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類

二 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの

三 申請施設の名称、目的、所在地その他の概要を説明する書類

四 運営委員会の規則及び名簿

五 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類

六 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類

七 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類

八 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類

九 その他第二条に規定する基準に適合することを説明する書類

(認定の手続)

第四条 文部科学大臣は、前条の申請があつた場合には、当該申請に係る認定をするかどうかを決定し、当該申請をした大学の学長に対し、速やかにその結果を通知するものとする。

2 文部科学大臣は、前項の認定を行う場合において、その有効期間を定めるものとする。

(変更及び廃止等の届出)

第五条 拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は、次に掲げる場合に

は、あらかじめ、その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。

一 当該施設の名称、目的又は所在地を変更しようとするとき。

二 当該施設を廃止しようとするとき。

三 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。

(文部科学大臣への報告等)

第六条 学長は、毎年度、当該年度における共同利用の実施計画を定め、当該年度の開始前に、文部科学大臣に提出するものとする。

2 学長は、毎年度終了後三月以内に、当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ、文部科学大臣に提出するものとする。

(認定の取消し)

第七条 文部科学大臣は、拠点が第二条に規定する基準に適合しなくなったと認めるとき又は第五条第二号若しくは第三号の届出を受けたときは、認定を取り消すことができる。

(認定等の公表)

第八条 文部科学大臣は、拠点の認定をし、又はこれを取り消したときは、インターネットの利用その他適切な方法により、その旨を公表するものとする。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成二十一年九月一日から実施する。

(共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程の一部改正)

2 共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程(平成二十年文部科学省告示第百三十三号)の一部を次のように改正する。

第一条及び第三条中「第百四十三条の二第二項」を「第百四十三条の三第二項」に改める。

第八条中「認めるとき」の下に「又は第六条第三号若しくは第四号の届出を受けたとき」を加える。

第九条中「若しくは」を「又は」に改め、「又は第六条第三号の届出を受け」を削る。

教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程案

◎共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程（平成二十年文部科学省告示第百三十三号）（附則第二項関係）

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
（趣旨） 第一条 学校教育法施行規則（以下「規則」という。）第百四十三条の三第二項の規定に基づく共同利用・共同研究拠点の認定その他の共同利用・共同研究拠点に関する事項については、この規程の定めるところによる。 （認定の基準） 第三条 規則第百四十三条の三第二項に規定する共同利用・共同研究拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。 一 九 （略） （認定の取消し） 第八条 文部科学大臣は、拠点が第三条に規定する基準に適合しなくなったと認めるとき又は第六条第三号若しくは第四号の届出を受けたときは、認定を取り消すことができる。 （認定等の公表） 第九条 文部科学大臣は、拠点の認定をし、又はこれを取り消したときは、インターネットの利用その他適切な方法により、その旨を公表するものとする。	（趣旨） 第一条 学校教育法施行規則（以下「規則」という。）第百四十三条の二第二項の規定に基づく共同利用・共同研究拠点の認定その他の共同利用・共同研究拠点に関する事項については、この規程の定めるところによる。 （認定の基準） 第三条 規則第百四十三条の二第二項に規定する共同利用・共同研究拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。 一 九 （略） （認定の取消し） 第八条 文部科学大臣は、拠点が第三条に規定する基準に適合しなくなったと認めるときは、認定を取り消すことができる。 （認定等の公表） 第九条 文部科学大臣は、拠点の認定をし、若しくはこれを取り消し、又は第六条第三号の届出を受けたときは、インターネットの利用その他適切な方法により、その旨を公表するものとする。

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」及び 「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」について

I. 趣旨

大学の機能別分化と大学間連携は、第一次報告の主要なテーマの一つであり、各大学が有する人的・物的資源の共同利用・有効活用を一層促進する観点から、学術研究分野において既に実施されている共同利用・共同研究拠点制度について、教育・学生支援分野についても創設することが提言された。

このことを受け、大学分科会に全国共同利用検討ワーキンググループを設置し、検討を重ねてきたところであり、その結果を踏まえ、以下のとおり学校教育法施行規則の一部を改正し、関連する規程を定めて、教育関係共同利用拠点制度を創設した。

II. 概要

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」について

「共同利用・共同研究拠点」について定めている現行の学校教育法施行規則第143条の2を第143条の3とし、新たに第143条の2として「教育関係共同利用拠点」に係る規定を新設する。

- ・ 教育に係る施設は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができる。
- ・ 当該施設が大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」について

- ・ 教育関係共同利用拠点の認定基準（施設が大学教育の充実に特に資すると認められるものであること、共同利用実施に関する重要運営について審議する委員会を置くこと、共同利用に必要な設備・資料等を備えていること等）について定める（第2条）。
- ・ 認定の申請や認定の手続き、変更・廃止等の手続き、認定等の公表について定める（第3条～第5条、第8条）。
- ・ 学長による共同利用の実施計画・実施状況報告の提出について定める（第6条）。
- ・ 文部科学大臣による認定の取消しについて定める（第7条）。

III. スケジュール

8月20日（木）公布 9月1日（火）施行